

石川
譯
代數學

六

福岡第一師範學校
（學校圖書）

分類第	號
自然科學	門
數學	部
代數	冊
第 6 冊 / 第 6 冊	冊
分類第	號
1 2	

27 A1

11

273

代數學卷之六

東京 石川 彞 譯

第十綱 方程式性質

通性

第四百十九章 設如ハ左ノ方程式アリ、

$$x^m + Ax^{m-1} + Bx^{m-2} + \dots + Tx + U = 0 \dots (壹)$$

式中ノ自乘標 m ニ度數ノ違差アリ
ト雖氏、 m ハ整數ニシテ正數ナリ、若
シ此式ノ如クナラサル者ハ、諸率ヲ
前項ニ移シ、未知數ノ遞減自乘標ニ
從テ位次ヲ立テ、始率ノ倍數ニ以テ

悉皆各率ヲ除シ、以テ本式ノ形ヲ成サシム可シ。
式中 $A B C$ 等ハ何ノ數タルヲ論セス、或ハ正數
タリ負數タリ、或ハ整數タリ分數タリ、或ハ適合
數タリ不合數タリ、或ハ真數タリ想像數タル可
シ、
終率 U ハ即チ x^0 ノ倍數ト見做ス可シ、而シテ式
中ノ自由率ナリ、

第四百二十章 方程式中 x ノ自乘標、若シ m 乗
ヨリ以下零乗ニ至ルマテ、毎次全備スル者ハ之
ノ完全式ト曰ヒ、中間闕漏アル者ハ之ヲ未完式

ト曰フ、若シ未完式ヲ以テ完全式ト為サント欲
セハ x ノ自乘標闕漏スル所ニ於テ一率ヲ設ケ、
 0 ヲ以テ其倍數ト為セハ、則チ闕ヲ補ヒ以テ完
全ノ形狀ヲ成サシム可シ、

第四百二十一章 凡ソ一元二次方程式ハ、之ヲ
解テ初乘ノ双率兩因子ト為ス可キハ、既ニ上(卷
之四第三百。五章)ニ之ヲ示シタリ、而シテ其未
知數ヲ以テ之ヲ視レハ、兩因子ノ前率ハ即チ未
知數ナリ、又後率ハ必ス該式平方根ノ一ニシテ、
正負ノ標記相反シ兩因子ハ到底零トナル可キ

者ナリ、故ニ吾輩斷シテ曰ハントス、凡ソ二次方
 程式ハ、一次ノ雙率兩因子相乘ノ積ト見做スコ
 ヲ得ハシト
 又一次ノ雙率三因子ノ積ハ、未知數ニ於テ之ヲ
 視レハ則チ以テ三次方程式ト為ス可キ者ナリ、
 而シテ雙率因子ノ後率變化スレハ、其積モ亦隨
 テ變化セサルヲ得ス、比如ハ左式ノ如シ、

$$(x-2)(x+3)(x-5)=x^3-4x^2-11x+30$$

$$(x-2+\sqrt{-3})(x-2-\sqrt{-3})(x+\frac{7}{4})=x^3-\frac{9}{4}x^2+\frac{49}{4}$$

$$(x+1-\sqrt{-3})(x+1+\sqrt{-3})(x-2)=x^3-8$$

此等ノ例ヲ推ンテ類ヲ擴メン
 ニ、隨テ掲クレハ隨テ増ス可シ
 ト雖、凡ソ以テ之ヲ視レハ皆
 三次方程式ニ屬シ、一次ノ三率
 ノ相乘シテ成ル者ナリ、是レ當
 ニ三次式ノミナラス凡ソ未知
 數ノ m 乗方程式ニ於テハ、一次
 ノ未知數因子ノ數 m ヲ相乘シ
 テ成ル者ナリ、

第四百二十二章 未知數 x ヲ有ツ所ノ複率ヲ

以テ零ニ同フシテ方程式ヲ作レハ、必ス前項ニ
 雙率因子 $x-a$ ヲ見ル可シ、而シテ其 a ナル者ハ、式
 ノ方根 $\sqrt{}$ ルヤ明ケシ、蓋シ之ヲ以テ x ニ代用ス
 レハ則チ前項零トナルカ故ナリ、
 若シ方程式ノ前項ニ於テ、初乗ノ雙率因子ヲ求
 メ得レハ、式ノ方根ハ即チ此因子中ニ在ル所ノ
 x ノ數價ニシテ、每因子皆零トナル可シ、
 此ノ如ク方程式ノ前項ヲ解テ、初乗ノ雙率因子
 ト為スノ術ハ悉ク煩難ニシテ、凡ツ式ノ次數ト

共ニ愈々煩雜ヲ増ス者ナリ、而シテ四次以上ノ式
 ニ至テハ、代數學士未タ解式ノ定法ノ發明セス、
 然リト雖モ真數式ニ於テ、方根若シ同率ナル者
 ハ、之ヲ精算スルヲ得ヘク、若シ不同率ナル者
 ハ、最近數ヲ取テ殆ト真價ニ迫ルヲ得シ、
 第四百二十三章 $x+a$
 $x+b$
 $x+c$
 如ク始率相同シク、
 次率異リタル雙率因子數多相乗ノ積ニ通スル
 所ノ法則ヲ定メンカ為ニ、先ツ此等數多ノ諸因
 子ヲ實ニ相乗シタル積ヲ求ムレハ、則チ左式ノ
 如シ、

此等ノ諸積ヲ玩味シテ左ノ二條ヲ決定ス、
 第一條 總積中ノ主字 α ノ自乘標ハ、始率ニ於
 テ雙率因子ノ數ノ如ク、第二率以下右方ニ移ル
 從テ每率一箇ヲ減シ、終率ニ至ルニ及テ遂ニ
 零ト為ル、

第一條 總積中ノ主字 x ノ自乘標ハ始率ニ於

從テ每率一箇ヲ減シ、終率ニ至ルニ及テ遂ニ

零
卜
為
ル、

第二條 始率ノ倍數ハ一箇ニシテ、第二率ノ倍數ハ雙率因子後率ノ和ニ同シク、第三率ノ倍數ハ雙率因子後率ヲ兩々相乘シタル各異諸積ノ和ニ同シク、第四率ノ倍數ハ雙率因子後率ヲ三々相乘シタル各異諸積ノ和ニ同シク、終率ハ即

數ハ雙率因子後率ノ和ニ同シク、第三率ノ倍數

ハ 雙率因子後率ヲ兩々相乗シタル各異諸積ノ

和ニ同シク、第四率ノ倍數ハ雙率因子後率ヲ三

々相乗シタル各異諸積ノ和ニ同シク終率ハ即

$$\left. \begin{array}{r} x+a \\ x+b \\ \hline x^2+a \\ +b \end{array} \right\} x+ab \} = (x+a)(x+b) \quad \cap$$

$$\left. \begin{array}{l} x \mid c \\ x^3 \mid a \mid x^2 + ab \mid x + abc \\ \quad + b \quad + ac \\ \quad + c \quad + bc \end{array} \right\} = (x+a)(x+b)(x+c)$$

$$\left. \begin{array}{cccc} x^4 + a & x^3 + ab & x^2 + abc & x + abcd \\ + b & + ac & + abd & \\ + c & + bc & + aod & \\ + d & + ad & + bcd & \\ & + bd & & \\ & + cd & & \end{array} \right\} = (x+a)(x+b)(x+c)(x+d)$$

ヲ自由率ニシテ、雙率因子ノ後率ヲ陸續相乘シタル積ナリ、
右第二條ニ示ス所ニ由レハ相乘スル所ノ雙率因子ハ、其數許多アリト雖、第 n 率ノ次ナル一率ノ倍數ハ毎ニ雙率因子ノ後率ヲ n ツ、相乘シテ、成ル所ノ各異諸積ノ和ニ同シキ者タルヲ知ル可シ、
上ニ説ク所ノ法則ハ、雙率因子ノ數 m ニ至ルモ、猶ホ此ノ如シト考定ス可ク、而シテ若シ復々新因子ヲ増シテ之ヲ乘スル氏、其積ニ亦此法則ニ

$$x^m + Ax^{m-1} + Bx^{m-2} + \dots + Mx^{m-n+1} + Nx^{m-n} + \dots + Tx + U$$

從ノ可クシハ、則チ其通則ヲ定ムルヲ得ヘシ、仍テ茲ニ $x+a$ 以下 $x+b$ ニ至ルマテノ雙率因子ノ數ヲ m ト為シ、以テ其積ヲ設クルト上ノ如シ、
今此積ノ成法ハ、猶ホ實ニ諸因子ヲ相乘シタルカ如ク一般ニシテ、更ニ前ノ法則ヲ變革スルヲ無キ者トス、
復々之ニ新因子 $x+q$ ヲ乘スレハ、則チ其積左ノ如シ、

$$\begin{array}{l}
 x^m + Ax^{m-1} + Bx^{m-2} + \dots + Mx^{m-n+1} + Nx^{m-n} + \dots + Tx + U \\
 x+q \\
 \hline
 x^{m-1} \mid A \mid x^m + B \mid x^{m-1} + \dots + N \mid x^{m-n+1} + \dots + U \mid x \\
 \quad \quad \quad |q| \quad |Aq| \quad \quad \quad |Mq| \quad \quad \quad \quad \quad \quad |Tq| \quad |Uq|
 \end{array}$$

此積ニ於テ之ヲ視レハ、自來標ハ
 更ニ上ノ法則ヲ變スルヲ無シ、又
 倍數ハ始率ニ於テ一箇ナリ、第二
 率ニ於テハ $A+q$ ナリ而シテ A ハ從
 前所設ノ積ニ於テ、雙率因子 m ノ
 後率ノ和ナルカ故ニ、 $A+q$ ハ則チ雙
 率因子 $m+1$ ノ後率ノ和ナリ、第三率
 ノ倍數ハ $B+Aq$ ナリ、前ノ積ニ由レハ、
 B ハ m 雙率因子ノ後率ヲ兩々一
 緒ニ相乘シタル各異諸積ノ和ニ

シテ、 Aq ハ新因子 $x+q$ ノ乘シタルニ由テ、更ニ増ス
 所ノ新積ナルカ故ニ、 $B+Aq$ ハ $m+1$ 雙率因子ノ後率ヲ
 兩々相乘シタル各異諸積ノ和ナリ、又其以下總
 テ第 n 率ノ次ナル一率ノ倍數ハ $N+Mq$ ナリ、蓋シ N
 ハ若干ノ雙率因子ノ後率ヲ兩々、相乘シタル
 各異諸積ノ和ニシテ、 M ハ雙率因子ノ後率ヲ $n-1$
 ツ、相乘シタル各異諸積ノ和ナルカ故ニ、 Mq ハ
 新因子 $x+q$ ノ乘シタルニ由テ、更ニ一因子ヲ増シ
 其後率ヲ兩々、相乘シタル各異諸積ノ和ナリ、
 斯ノ如ク實際ノ乘術ヲ以テ、雙率因子 m ヲ相乘

シタル積ノ法則ヲ試ルニ、既ニ四因子ニ至テ更ニ變革ナシ、然レハ則チ五因子ニ至ルモ亦變革ナカル可ク、六七因子モ亦斯ノ如クナルヲ知ル可シ、是ヲ以テ此法則ハ即チ以テ通則ト為ス可シ、

第四百二十四章 方程式ノ方根各率ノ倍数ハ

其成法左ノ如シ、

比如ハ m ヲ以テ雙率因子若干ノ數ト為シ、 $x-a$ $x-b$ 中界 $x-p$ $x-q$ ヲ以テ雙率因子ト為シ、後率 a b c 等ハ何ノ數タルヲ論セス、前章ニ示ス所ノ如

ク、此等ノ諸因子ノ積ヲ以テ、陸續 x ノ遞減自象標ニ從ヒ位次ヲ立ツレハ、則チ左ノ形狀ヲ為ス可シ、

$$x^m + Ax^{m-1} + Bx^{m-2} + Cx^{m-3} + \dots + Sx^2 + Tx + U$$

積中 A B C 等ノ數價ハ、則チ左式ノ如シ、

$$\left. \begin{matrix} (x-a)(x-b)(x-c)\dots \\ (x-p)(x-q) \end{matrix} \right\} = \left. \begin{matrix} x^m + Ax^{m-1} + Bx^{m-2} + \dots \\ + Sx^2 + Tx + U \end{matrix} \right\} \quad (1)$$

此後之項式
如次ハトス
シ、式則スヲノ

$$x^m + Ax^{m-1} + Bx^{m-2} + \dots + Sx^2 + Tx + U = 0 \quad (2)$$

式中方根ナルヲ以テ壹式ノ
前項各因子ノ x ニ代用
スレハ、則チ前項ヲ消滅
ス可ク、仍テ又後項ヲ消
滅セシム可シ、是故ニ A
 B C 等ノ係數及ヒ貳式
ノ方根ノ間ニ存スル所
ノ關係左ノ如シ、

$$A = -a - b - c - \dots - p - q$$

$$B = +ab + ac + bc + \dots + ap + aq$$

$$C = -abc - bcd - acd - \dots - abp - abq$$

$$S = +abcd \dots pq_{m-2} \pm bcde \dots pq_{m-2} \pm \dots$$

$$T = -abcde \dots pq_{m-1} \mp bcdef \dots pq_{m-1} \mp \dots$$

$$U = +abcd \dots pq_m$$

式 中 諸 率 ノ 下
ニ 附 記 ス ル 所
ノ $m-2$ $m-1$ m ハ、其
各 率 ニ 採 ル 可
キ 字 因 ノ 數 ヲ
示 ス 者 ナリ、
是 ニ 由 テ 次 ノ
一 致 式 ヲ 得、

第一則 第二率ハ倍數ハ小字諸方根ノ和ニ同
シクシテ標記相反スル者ナリ
第二則 第三率ハ倍數ハ小字方根ヲ兩々相乘
シテ成ル所ノ各異諸積ノ和ニ同シ
第三則 第四率ノ倍數ハ小字方根ヲ三々相乘
シテ成ル所ノ各異諸積ノ和ニ同シクシテ標記
相反スル者ナリ
第四則 凡ソ第 n 率ハ次率倍數ハ小字方根ヲ
 n ツ、相乘シテ成ル所ノ各異諸積ノ和ニ同シ
クシテ n 若シ奇數ナル時ハ標記相反スル者ナ

リ、
第五則 自由率ハ陸續各方根ヲ相乘シタル者
ナリ而シテ若シ方程式ハ次數奇數ナル時ハ其
標記ヲ反ス

以上五則ハ已知方根ヲ以テ方程式ヲ作ル可ク、
又壹式ノ成立ニ由テ貳式ハ豫定ノ方根ノミヲ
以テ成リ他率ヲ交エ可カラサルヲ知ル可シ何
トナレハ n ノ數價タルヤ壹式ノ前項ヲ消失ヤ
シタル所ノ方根ニ異ナルヲ無キヲ以テナリ、
是ニ由テ之ヲ觀レハ未知 n 數ノ方程式ハ其次

數ノ自乘標中ニ含有スル所ノ一箇ト同數ノ方根ヲ含有シ、決シテ其餘ヲ含有スルヲ能ハサル者ナリ、

第四百二十五章 未知一數ノ方程式ハ、眞數或ハ想像數トモ、必ス方根ヲ有ッ者ト為ス時ハ、第 m 次方程式ノ後項零ナレハ、其前項ハ未知數ヲ以テ之ヲ視レハ、一次ノ m 雙率因子ヲ陸續相乗シタルノ積ト見做スヲ得ヘシ、仍テ茲ニ先ッ左式ヲ設ケ、式中ニ一方根アル時ハ、其前項ハ $x-a$ ヲ以テ之ヲ整除ス可キヲ證ス可シ、

$$x^m + Ax^{m-1} + Bx^{m-2} + \dots + Tx + U = 0 \dots\dots (壹)$$

此式ニ除術ヲ施セハ、其剩餘ハ終ニ x 字トキニ至ル可ク、且ツ各商必ス一率ヲ得ルカ故ニ、新實ハ必ス舊實ヨリモ一次ヲ減ス可シ、
若シ其商ヲ以テ Q ト為シ、剩餘ヲ以テ R ト為セハ則チ次ノ一致式ヲ得、

$$x^m + Ax^{m-1} + Bx^{m-2} + \dots + Tx + U = Q(x-a) + R \dots (貳)$$

式ノ前項及ヒ後項ノ第一率ヲ消滅ス可
ク、又 $R=0$ ニシテ R 中ニハ x ヲ含有セサル
ノ豫定ナルカ故ニ假令ヒ x ニ何ノ數價
ヲ附スルモ、此式必ス皆零ナル可ク且ツ
之ヲ整除スルヲ得ヘシ、

第四百二十六章

上章ニ説ク所ノ者ヲ反覆シ

テ、左式ノ前項若シ

$x=a$ ヲ以テ整除ス可キ時ハ a

ハ、必ス式中ノ一方根タル可シ、

$$x^m + Ax^{m-1} + Bx^{m-2} + \dots + Tx + U = 0$$

此ニ除術ヲ
施シ、所得ノ
商ヲ以テ Q
ト為セハ則
チ次ノ一致
式ヲ得ヘシ、

$$x^m + Ax^{m-1} + Bx^{m-2} + \dots + Tx + U = Q(x-a)$$

此式ニ於テ $x=a$ ナルヲ
以テ、此式ノ後項ヲ消
滅スルカ故ニ、前項ヲ
消滅ス可ク、仍テ式ニ
合ス可シ、

第二百四十七章

テ方根ノ數ハ自乘標ニ顯ハル、所ノ次數ニ同シク、決シテ其餘ヲ有ツ可カラサル者トス、

比如ハ上式ニ於テ一方根ヲ α ト為セハ、 $x=\alpha$ ハ則チ其前項ノ一因子タル可ク、(第四

百二十五章) $x-\alpha$ ヲ以テ衆率ヲ除シテ得

$$x^m + Ax^{m-1} + Bx^{m-2} + \dots + Tx + U = 0$$

ル所ノ商ハ、則チ左ノ如シ、

$$x^{m-1} + Ax^{m-2} + \dots + Tx + U$$

$$x^{m-1} + Ax^{m-2} + \dots + Tx + U'$$

得、式一次由是ヲ致ノテ、ニ

$$\left. \begin{matrix} x^m + Ax^{m-1} + Bx^{m-2} \\ + \dots + Tx + U \end{matrix} \right\} = \left\{ \begin{matrix} (x-a)(x^{m-1} + Ax^{m-2} + \dots \\ + \dots + Tx + U') \end{matrix} \right.$$

$$x^{m-1} + Ax^{m-2} + \dots + Tx + U = 0$$

此式ノ後項ハ x ノ數價ニ拘ラス、其一因子零ナルカ故ニ消失ス可シ、是ニ於テ又次ノ式ヲ作ル、此式ノ方根ヲ以テ β トス、ハ則チ左式ヲ得ヘシ、

$$\left. \begin{array}{l} x^{m-1} + A'x^{m-2} + \dots \\ Tx + U \end{array} \right\} = \left\{ \begin{array}{l} (x-\beta)(x^{m-2} + A''x^{m-3} + \dots \\ Tx + U'' \end{array} \right.$$

斯ノ如ク第一第二ノ一致式ヲ作り、又同法ヲ以テ第三式ヲ作り、漸次ニ第四第五式等ヲ作りテ、終ニ第 $(m-1)$ ノ一致式ニ至ラハ、其後項ノ第二因子ハ x ヲ以テ之ヲ視レハ一次ト為ル可シ、此式ノ前項ニ代フルニ第一式ノ後項ヲ以テシ、漸次斯ノ如クシテ、其始ニ復ルニ至ラハ、其所得ハ則チ左ノ一致式ノ如クナル可シ、

$$\left. \begin{array}{l} x^m + Ax^{m-1} + Bx^{m-2} \\ + \dots Tx + U \end{array} \right\} = \left\{ \begin{array}{l} (x-a)(x-\beta)(x-c) \dots \\ (x-p)(x-q) \end{array} \right.$$

此後、項ハ其諸因子ノ數價 m 中ノ各價ニ對シテ必ス消滅ス可シ、蓋シ m 數價ハ則チ左ノ如キカ故ナリ
此等ノ諸價ハ、則チ各、左式ノ方根ナル可シ、
 $x=a$
 $x=\beta$
 $x=c$
 \dots
 $x=p$
 $x=q$

$$x^m + Ax^{m-1} + B^{m-2} + \dots + Tx + U = 0$$

此ニ於テ若シ x ノ數價、右ノ諸價ト異ナル時ハ、決シテ式ニ合スル一能ハス、蓋シ其他ノ數價ニ在テハ一致式ノ後項ニ於テ一因子ヲ零ト為ス一能ハサルヤ固ヨリナリ、是故ニ式中只 m 方根アリ、絶テ剩餘ナシト云フ、

第四百二十八章 以上說ク所ノ理ニ由テ、左ノ諸件ヲ決定ス、

第一條 方程式ノ第二率、即チ未知數ノ最高自

乘標ニ次ク若ク含有セル一率ヲ失スル者ニ於テ其方根ノ代數和ハ零ナリ、

第二條 方程式中一モ自由率ナキ者ハ、其一率必ス零ナリ、

第三條 自由率ハ式中諸方根ノ積ナルカ故ニ、各方根ヲ以テ之ヲ整除ス可シ、

第四條 豫メ方根ヲ定メテ之ヲ含有スル所ノ方程式ヲ作ルヲ得ヘシ、

第五條 方程式ノ次數ハ一方根ヲ知ル毎ニ一次ヲ減シテ之ヲ約スヲ得ヘシ、

設問

第一

+2
-3
ヲ以テ方根ト為ス所ノ方程式ヲ求

△、

第二

+1
-2
-4
ヲ以テ方根ト為ス所ノ方程式ヲ

求△、

第三

+3
-2
-1
+5
ヲ以テ方根ト為ス所ノ方程式

ヲ求△、

第四

方程式ノ方根

$$1 + \sqrt{-5}$$
$$1 - \sqrt{-5}$$
$$+ \sqrt{-5}$$
$$- \sqrt{-5}$$

ナル者ヲ問

フ、

第五

方程式ノ方根

$$-1$$
$$-2$$
$$+3$$
$$2 + \sqrt{-3}$$
$$2 - \sqrt{-3}$$

ナル者ヲ問

フ、

第六

方程式

$$x^3 - 5x^2 + 13x - 21 = 0$$

ノ一方根ハ+3ナリト云フ、其約

式ヲ求△、

第七 方程式

ノ一方根 -7 ナリ、其約式ヲ求ム

$$x^4 + 2x^3 - 34x^2 + 12x + 35 = 0$$

第八 方程式

ノ二方根 $+2$ -3 ナリ、其約式及ヒ

$$x^4 - 3x^3 - 4x^2 + 30x - 36 = 0$$

他、方根ヲ問フ、

第四百二十九章

方程式中ニ分數ノ倍數アル

者ハ其形狀ヲ變化シテ諸倍數ヲ整數ト為シ第

一倍數ヲ一箇ト為スヲ得ヘシ、

方程式第一率ノ倍數

一箇ニ非サル者ハ其

倍數ヲ以テ全式ヲ除

シテ以テ一箇ト為ス

可シ然レハ則チ其式

ノ形狀次ノ如シ、

$$x^m + Ax^{m-1} + Bx^{m-2} + \dots + Tx + U = 0$$

式中 A B C 等ノ倍

數ハ分數ト為ル

アル可シ、

是故 $x = \frac{y}{a}$ として、
 左ノ x 代用シタル者トスレバ、則チ上式變シテ

$$\frac{y^m}{a^m} + A \frac{y^{m-1}}{a^{m-1}} + B \frac{y^{m-2}}{a^{m-2}} + \dots + T \frac{y}{a} + U = 0$$

此 $= a^m$ 乘シテ
 得、次式

$$y^m + A a y^{m-1} + B a^2 y^{m-2} + \dots + T a^{m-1} y + U a^m = 0$$

今 a ハ隨意ノ數ナルカ
 故ニ其數價及ヒ其自乘
 標ニ於テ原式固有分數
 ノ分母ヲ有ツ者ト為ス
 得ヘシ之ヲ辨明セ
 ンカ為ニ左ニ數例ヲ掲

第一 左ノ方程式ヲ變化シテ分數ノ倍數ヲ省

キ第一率ノ倍數ヲ一箇ト為ス可シ、

$$x^3 + \frac{ax^2}{m} + \frac{bx}{n} + \frac{c}{p} = 0$$

是ニ於テ $x = \frac{y}{mnp}$ として、
 價ヲ式ニ代用シテ得、

$$\frac{y^3}{m^3 n^3 p^3} + \frac{a y^2}{m^2 n^2 p^2} + \frac{b y}{m n^2 p} + \frac{c}{p} = 0$$

以テ $m^3 n^3 p^3$ 乘ス、
 此各

$$y^3 + a n p y^2 + b m^2 n p^2 y + c m^3 n^3 p^2 = 0$$

若シ原式
 倍數ノ分
 母ニ通因
 子アル者
 ハ諸分母
 ノ最小公
 除數ヲ以

テ y ヲ除スル者ヲ以テ x ニ同シト為スヲ得
ヘシ、

第二 左ノ方程式ヲ變シテ分數ノ倍數ヲ省キ
第一率ノ倍數ヲ一箇ト為ス可シ、

$$x^3 + \frac{ax^2}{pm} + \frac{bx}{m} + \frac{c}{p} = 0$$

此式ノ如キハ
 $x = \frac{y}{pm}$ ト為スヲ以
テ足レリトス、然
リ而シテ x ノ此
數價ヲ代用シテ
次式ヲ得、

$$\frac{y^3}{p^3m^3} + \frac{ay^2}{p^3m^3} + \frac{by}{pm^2} + \frac{c}{p} = 0$$

各率ニ乘
シテ變式
ヲ得ル
下ノ如シ、

$$y^3 + ay^2 + bp^2my + cp^2m^3 = 0$$

第三 左ノ方程式ヲ變シテ分數ノ倍數ヲ省ク
可シ、

$$x^4 + \frac{5x^3}{6} + \frac{3x^2}{4} + \frac{7x}{24} + \frac{1}{12} = 0$$

答

$$y^4 + 20y^3 + 18 \cdot 24y^2 + 7(24)^3y + 2(24)^3 = 0$$

凡ソ分數方程式ヲ變シ、他ノ未
知數ニ於テ整數式ト為サント
欲セハ、必ス最小ノ約式ヲ以テ
スルヲ要トス、蓋シ分母ノ最小
公除數ハ必シモルノ最小數價
タルヲ得サルカ故ニ、直ニ之ヲ
以テ答ト為ス可カラス、毎ニ分
母ヲ解テ各、其原初因子ト為セ

ハ、則チ a ノ因子ト為ス可キ諸因子ノ乗方ヲ判
 斷スル一亦難キニアラサル可シ。
 是等ノ解ハ次例ノ説明ヲ参考スルハ、則チ自
 カラ明亮ナル可シ、

第四 左ノ方程式ヲ變シ、最小整数ノ倍数ト為
 ス可シ、
 $x = \text{代フル} = y$ ヲ以テシ、第二第三第四
 ノ各率ニ a, a^2, a^3 ノ各一ヲ乗シテ次式ヲ
 得、
 $x^3 - \frac{3}{35}x^2 + \frac{13}{2450}x - \frac{17}{68600} = 0$

$$y^3 - \frac{3}{35}ay^2 + \frac{13}{2450}a^2y - \frac{17}{68600}a^3 = 0$$

此分母ノ原初
 因子ヲ解ケハ、
 則チ左ノ如シ、
 $7 \cdot 5$
 $7^2 \cdot 5^2 \cdot 2$
 $7^3 \cdot 5^2 \cdot 2^3$
 今 $a = 7 \cdot 5 \cdot 2$
 トスレハ
 上式變シテ次
 ノ如シ、

$$y^3 - \frac{3 \cdot 7 \cdot 5 \cdot 2}{7 \cdot 5}y^2 + \frac{13 \cdot 7^2 \cdot 5^2 \cdot 2^2}{7^2 \cdot 5^2 \cdot 2}y - \frac{17 \cdot 7^3 \cdot 5^3 \cdot 2^3}{7^3 \cdot 5^2 \cdot 2^2} = 0$$

之ヲ約
 シテ次
 式ヲ得、

$$y^3 - 6y^2 + 26y - 85 = 0$$

右ノ例ニ於テ分母ノ最小公除數 $7^3 \cdot 5^2 \cdot 2^3$ ナリ、若シ
 之ヲ a ト為シテ $7 \cdot 5 \cdot 2$ ノ取ラサレハ則チ變式ノ倍
 數ハ上ニ出ル所ヨリモ較、大ナル可シ、
 若シ變式ノ一方根ヲ知レハ、則チ之ニ適應スル
 所ノ原式ノ方根ハ左ノ如クナル可シ、

$$x = \frac{y}{a}$$

同率方根

第四百三十章 凡ソ數ノ一箇整數、或ハ一箇分
 數ノ以テ成ル者ハ之ヲ同率數ト為シ、否ラサル
 者ハ之ヲ不同率ト為ス

第四百三十一章 方程式第一率ノ倍數一箇ニ
 シテ、自餘ノ倍數悉ク整數ナル者ハ、其同率方根
 皆整數ナル可シ、

方程式ノ此性タルヤ、論理上最モ緊要ノ者ナル
 ヲ以テ速ニ此言ノ意ヲ解セサル可カラズ、若シ
 方程式ノ方根悉ク整數ニ非スシテ他ノ方根ヲ

交ユル者ト雖、 $\frac{2}{3}$ $\frac{7}{9}$ $\frac{11}{4}$ 等ノ如キ定限アリテ約ス可カフサルノ分數トナラス、所謂ル他ノ方根ナル者ハ必ス $\sqrt{2}$ $(3)^{\frac{1}{3}}$ 等ノ如キ不同率數、即チ不開數、若シクハ不定小數、或ハ想像數ナリトス、

比如ハ $\frac{a}{b}$ ヲ以テ同率ニシテ約ス可カラサルノ分數ト為シ之ヲ式ノ方根ト為シテ以テ上文ノ確實ナルヲ證ス可シ、即チ左ノ如シ

$$x^m + Ax^{m-1} + Bx^{m-2} \dots Tx + U = 0$$

式 中 A B
等 ハ 整 數
ナリ、此 式
ニ X ノ 數
價 ヲ 代 用
シ テ 次 式
ヲ 得、

$$\frac{a^m}{b^m} + A \frac{a^{m-1}}{b^{m-1}} + B \frac{a^{m-2}}{b^{m-2}} \dots T \frac{a}{b} + U = 0$$

第 一 率
ノ 外 諸
率 ヲ 移
シ b^{m-1} ヲ
以 テ 之
ニ 乘 シ
テ 次 式
ヲ 得、

$$\frac{a^m}{b^m} = T(Aa^{m-1} + Ba^{m-2}b \dots Tab^{m-2} + Ub^{m-1})$$

a b
相 互 ニ
原 初 因
予 ナル
ヲ 以テ、
b ハ a
ヲ 除 ス
ル 能
ハ ス、又

a ノ乗方ヲ除スル Γ 能ハサルハ固ヨリナリ、蓋
 シ $\frac{a}{b}$ ハ既ニ約ス可カラサル者ナレハ $\frac{a}{b} \times a$ モ
 亦約ス可カラサル者ナリ是レ他ナシ a b 同率
 數ニ非サルカ為ナリ、是故ニ $\frac{a^2}{b}$ ハ整數ヲ以テ
 之ヲ記スル Γ 能ハスト云フ、此理ニ $\frac{a^m}{b}$ モ亦整
 數ヲ以テ之ヲ記スル Γ 能ハスト雖氏式ノ他項
 ニ在ル各率ハ整數ヲ以テ之ヲ記スル Γ 得ヘ
 シ、
 是ニ由テ之ヲ觀レハ、約ス可カラサルノ分數、即
 チ $\frac{a}{b}$ ヲ以テ式ノ方根ト假定シタルハ全ク隨

意ニ出ツルヲ以テ一列ノ整數及テ約ス可カラ
 サルノ分數ト為ルヲ知ル可シ、是故ニ此類ノ方
 程式ハ、其方根中ニ定限アル同率分數ヲ有ツ Γ
 能ハスト為ス、

第四百三十二章 分數ノ倍數アル方程式ニシ
 テ第一率ノ倍數一箇ナル者ハ、其倍數ヲ整數ト
 為シ、同形ノ他式ニ變化ス可キハ、既ニ之ヲ第四
 百二十九章ニ論シタリ、所謂ル整數トハ代數學
 語ノ意味ニ由テ稱スル所ニシテ、即チ只、代數ノ
 形狀ニ於テ整數ナルノミ、其實或ハ不合數ト為

リ、或ハ想像數ト為ル可シ、若シ此倍數整數ナル
 時ハ、式中ノ同率方根モ亦悉ク整數ナルハ上章
 ニ説ク所ノ如シ、且ツ此等ノ諸方根ハ必ス自由
 率ノ分子中ニ在ル者トス（第四百二十八章）若シ
 自由率ノ分子一二數ニシテ明白ナル者ハ、着眼
 ヲ以テ代用法ヲ用ヒ、方根ニ應ス可キ者ヲ得ヘ
 シト雖、氏多クハ左ニ示ス所ノ法則ヲ以テ其術
 ノ煩勞ヲ避ク可シ、
 比如ハ a ヲ以テ次ノ方程式ノ同率方根ト為ス、

$$x^m + Ax^{m-1} + \dots + Rx^3 + Sx^2 + Tx + U = 0$$

今 a ヲ以テ
 $x = a$ 代へ、後
 率ノ外諸率
 ヲ悉ク後項
 ニ移シ a ヲ
 以テ式ヲ除
 スレハ、則チ
 次式ヲ得、

$$\frac{U}{a} = -a^{m-1} - Aa^{m-2} - \dots - Ra^2 - Sa - T$$

是ニ於テ a ハ方
 程式ノ方根ナル
 ヲ以テ $\frac{U}{a}$ ハ整
 數ナリ、今 T ヲ前
 項ニ移シテ
 $\frac{U}{a} + T = N_1$
 トシ、 a ヲ以テ所
 得ノ兩項ヲ除ス
 レハ下ノ如シ、

$$\frac{N_1}{a} = -a^{m-2} - Aa^{m-3} - \dots - Ra - S$$

此式ノ後項ハ整數ナルカ故ニ前項モ亦整數ナリ、若シ $-S$ ヲ前項ニ移シ $\frac{N_1}{a} + S$ トナルヲ N_2 ト為シ、復タ a ヲ以テ式ヲ除スレハ、則チ次式ヲ得ヘシ、

$$\frac{N_2}{a} = -a^{m-3} - Aa^{m-4} - \dots - R$$

此式ノ後項モ整數ナルカ故ニ前項モ亦整數ナリ、右ノ如ク漸次ニ後項ノ終率ヲ前項ニ移シ、毎ニ a ヲ以テ式ヲ除スレハ、結局左式ヲ得ルニ至ル可シ。

$$\frac{N_{m-2}}{a} = -a - A$$

$$\frac{N_{m-1}}{a} = -1$$

$$\frac{N_{m-1}}{a} + 1 = 0$$

凡ソ整數ニシテ本章ノ初ニ設クル所ノ方程式ノ一方根タル者ハ、當初ヨリ逐一各款ノ要件ニ合シ最後ノ式 $\frac{N_{m-1}}{a} = -1$ ニ至テ則チ其方根ヲ知ル可シ、

凡ソ斯ノ如キ形狀ヲ為ス所ノ方程式ノ同率方

根ハ左ノ法則ヲ以テ之ヲ求メ得ヘシ

第一則 自由率ノ諸整數分子ヲ一列ニ書シ其
下ニ各自ノ商ヲ書ス可シ

第二則 此等ノ各商ニ終率ハ次ナル率ノ倍數
ヲ加ヘ各自固有ノ標記ヲ附ス可シ

第三則 此等ノ諸和ニ就テ整商ヲ得ヘキ者ハ
應當ノ分子ヲ以テ之ヲ除シ整商ヲ得ヘカラサ
ル者ハ之ヲ閣ク

第四則 右諸商ニ終率ヨリ第三ナル一率ノ倍
數ヲ加ヘ各自固有ノ標記ヲ附ス可シ此以下再

三前ノ如ク除加ノ兩術ヲ施シ結局第二率ノ倍
數ヲ前ノ商ニ加ヘ各自應當ノ分子ヲ以テ最後
ノ和ヲ除シ其諸分子最後ノ商即チ負數一箇ニ
應當スル時ハ則チ式ノ方根ヲ得ヘン

原註ニ曰ク未知數ノ乗方ニ闕漏アル者ハ
ヲ以テ倍數ト為ス所ノ一率ヲ設ケテ之ヲ補
充ス可シ

設問

第一 左ノ式ニ於テ若シ同平方根アラズ之ヲ
求ム可シ

是ニ由テ之ヲ觀レハ、此問題ノ式ニハ、 $-1 = 同シ$
 キニノ終商アリ、其應當ノ分ナハ、 1 及ヒ -5 ナル
 カ故ニ、式中ニ $1 - 5$ 兩同率方根アリトス、
 若シ本式ヲ除スルニ
 即チ $(x-1)(x+5)$
 即チ $x^2 - 4x - 5$ ヲ以テスレハ、則
 其商 $x^2 - 2$ トナルヘキカ故ニ左式ヲ得ヘシ、
 $x^2 - 2 = 0$
 $x = \pm \sqrt{2}$
 此四方根ハ即チ $1 - 5 + \sqrt{2} - \sqrt{2}$ ナリ、

$$x^4 + 4x^3 - 3x^2 + 8x - 10 = 0$$

術

$10, 5, 2, 1, -1, -2, -5, -10$ 子分
 -10
 $-1, -2, -5, -10, 10, 5, 2, 1$ 商
 加) 8
 $7, 6, 3, -2, 18, 13, 10, 9$
 $-2, 18, -2$ 商二第
 加) -3
 $-5, 21, -5$
 $-5, 21, 1$ 商三第
 加) 4
 $-1, 25, 5$
 $-1, -25, -1$ 商四第

左ノ方程式ノ同率方根ヲ求ム、

二第

$$x^2 - 6x^2 + 11x - 6 = 0$$

三第

$$x^4 + 4x^3 - x^2 - 16x - 12 = 0$$

四第

$$x^4 - 6x^3 - 16x + 21 = 0$$

五第

$$x^4 - 6x^3 + 5x^2 + 2x - 10 = 0$$

原註ニ曰ク、第四問ハ一率闕漏アルヲ以テ次
ノ如ク式ヲ作テ之ヲ補ヒ、施術ノ間之
ヲ處スルヲ加フル所ノ〇ノ形ノ如ク
ス可シ、

$$x^4 \pm 0x^3 - 6x^2 - 16x + 21 = 0$$

般複率

第四百三十三章 單ニ未知一數ヲ有テル方程
式ノ前項ニ式ノ諸率ヲ移セハ、其前項ハ通常之
ヲ複率ト謂ヒ、施術ニ方テハ以テ一箇ノ代數ト
為シ、其式ノ如何ヲ問ハス、且ツ所謂ル複率ハ未
知數價ニ由リ約シテ零ト為シ以テ式ニ合ス可
シト雖氏更ニ之ニ關スル無シ
爰ニ複率アリ左ノ如シ、

$$Ax^m + Bx^{m-1} + Cx^{m-2} + \dots + Sx^2 + Tx + U$$

此諸率ニ乗スルニ各其 x ノ自乘標ヲ以テスレハ、則チ各率其自乘標ノ一箇ヲ減ス可ク、其所得ノ代數和ハ即チ次ノ如シ、

$$mAx^{m-1} + (m-1)Bx^{m-2} + (m-2)Cx^{m-3} + \dots + 2Sx + T$$

初ノ複率ニ由テ此複率ヲ作ルカ如ク、同法ヲ以テ復タ第三ノ複率ヲ作ルハ則チ次ノ如シ、

$$m(m-1)Ax^{m-2} + (m-1)(m-2)Bx^{m-3} + (m-2)(m-3)Cx^{m-4} + \dots + 2S.$$

復タ第三複率ニ由テ同法ニ從ヒ第四複率ヲ作ルコトヲ得ヘク、斯ノ如ク漸次ニ第五第六等ノ複率ヲ作ラハ終ニ x ニ關セサル者ト為ル可シ、何トナレハ此ノ如ク作為スル所ノ複率ニ於テハ、 x ノ乗方毎下一箇ヲ減スルカ故ナリ、

今最初ノ複數ヲ以テ X ト為シ、第二ノ複率ヲ X_1 ト為シ、第三ヲ X_2 ト為サハ、毎下一箇ノ複率左ノ如シ、

$$\begin{array}{l} X \text{ノ第一假複率} \parallel X_1 \\ X_1 \text{ノ第一假複率} \parallel X_2 \\ X_2 \text{ノ第一假複率} \parallel X_3 \end{array}$$

此他之ニ倣ヘ、

右 X_1, X_2, X_3 等ハ皆 X ノ每次假複率ニシテ、第一第

ニ第三ノ假複率ト名ツク、

以上説ク所ノ記法ニ從ヒ、每次假複率ノ法則ヲ

得ルヲ左ノ如シ、

則 X_1 ヲ作ルニハ、 X ノ各率ニ各、其 X ノ自乘標

ヲ乘シ、其自乘標ハ一箇ヲ減シテ所得ノ代數和

ヲ取ル可ク、 X_2 ハ其基ヲ X_1 ヲヨリ、假テ以テ之ヲ作

ル、猶ホ X ニ由テ X_1 ヲ作ルカゴトク、其餘皆之

ニ準ス可シ、
設問 左ノ複率アリ、每次ノ假複率如何、

$$3x^5 + 5x^4 - 9x^3 + 7x^2 - 8x + 5$$

答

$$5 \cdot 3x^4 + 4 \cdot 5x^3 - 3 \cdot 9x^2 + 2 \cdot 7x - 8 \quad \text{一 第}$$

$$4 \cdot 5 \cdot 3x^3 + 3 \cdot 4 \cdot 5x^2 - 2 \cdot 3 \cdot 9x + 2 \cdot 7 \quad \text{二 第}$$

$$3 \cdot 4 \cdot 5 \cdot 3x^2 + 2 \cdot 3 \cdot 4 \cdot 5x - 2 \cdot 3 \cdot 9 \quad \text{三 第}$$

$$2 \cdot 3 \cdot 4 \cdot 5 \cdot 3x + 2 \cdot 3 \cdot 4 \cdot 5 \quad \text{四 第}$$

$$2 \cdot 3 \cdot 4 \cdot 5 \cdot 3 \quad \text{五 第}$$

假複率成分

設如ハ左式ノ

如キ複率アリ、

$$x^m + Ax^{m-1} + Bx^{m-2} + \dots + Tx + U = X$$

此式ノ初乗ノ
xノ雙率ノ
因子ヲ
以テ次
ノ如キ
者トス、

$$x-a, x-b, x-c, \dots, x-m, x-n.$$

是ニ由テ一得式ヲ致シ、
如次ル

$$x^m + Ax^{m-1} + \dots + Tx + U = (x-a)(x-b) \dots (x-m)(x-n)$$

式中兩項ノx
ニ何等ノ數ヲ
代用スル氏毎
ニ式ニ合ス可
シ、仍テy+x
ヲ代フレハ、
則チ左ノ如

$$(y+x)^m + A(y+x)^{m-1} + \dots = (y+x-a)(y+x-b) \dots (y+x-n)$$

式中x-a
ハ單率ト
見做ス可キ
故ニ、後項ノ
各因子モ亦
雙率ト見做
ス、得ヘシ、
今此式ノ前
項ヲ解テyノ
遞加自乗標ニ
從テ位次次
ヲ立ツレハ、
則チ次式ノ
如シ、

$$X + X_1 y + \frac{X_2}{2} y^2 + \dots + \frac{X_{m-1}}{1 \cdot 2 \dots (m-1)} y^{m-1} + y^m$$

又上式ノ後項
ヲ解キ同法ノ
以テ位次ヲ立
ツレハ第四百
二十四章ニ
第五則ニ從ヒ
y⁰ノ倍數次ノ
如シ、
(x-a)(x-b) \dots (x-m)(x-n)

y ノ倍數ハ $x-a$ $x-b$ 等ノ諸因子ヲ $m-1$ ツ、一緒ニ相
 乘シタル積ノ代數和ナル可シ、
 y^2 ノ倍數ハ同諸因子ヲ $m-2$ ツ、一緒ニ相乘シタ
 ル積ノ代數和ナル可シ
 暫時ニシテ此等ノ諸倍數ハ若干ノ雙率因子ノ
 積ニ關スル所ノ法則ニ從テ悉ク之ヲ作ルヲ
 得、シ、
 然リ而シテ此兩項ノ解式ニ於テ、 y ノ同乘方ノ
 倍數ハ必ス相同シカラサルヲ得ス、(第三百六十
 八章第三條)故ニ左式ヲ得、

$$X = (x-a)(x-b)(x-c) \dots (x-m)(x-n)$$

m 因子ノ中ニ
 就テ $m-1$ ツ、一
 緒ニ相乘シタ
 ル積ノ和ハ、各
 因子ヲ以テ諸
 因子相乘ノ積
 ヲ除シタル諸
 商ノ和ニ同シ
 キカ故ニ次式
 ヲ得、

$$X_1 = \frac{X}{x-a} + \frac{X}{x-b} + \dots + \frac{X}{x-m} + \frac{X}{x-n}$$

雙率因子ヲ $m-2$ ツ、
 一緒ニ相乘シタル
 積ノ和ハ、雙率因子
 ヲ兩々相乘シタル
 各異ノ積ヲ以テ、諸
 因子相乘ノ積ヲ除
 シタル諸商ノ和ニ
 同シキヲ以テ、左式
 ヲ得ヘシ、

$$X = x^m + Ax^{m-1} + Bx^{m-2} + \dots + Tx + U = 0$$

此式ハ亦次
ノ如ク之ヲ
記ス可キハ、
既ニ之ヲ上
（第四百二十
七章）ニ示シ
タリ、

$$X = (x-a)(x-b)(x-c) \cdots (x-m)(x-n) = 0$$

今此方根ノ數
 $a = \text{同シ}$
 $q = \text{同}$
 $r = \text{同}$
 $c =$
 同シキ時ハ、此
 式變シテ下ノ
 如シ、

$$X = (x-a)^p (x-b)^q (x-c)^r \dots (x-m)(x-n) = 0$$

第四百三十五章 設如ハ a b c $:$ $:$ $:$ m n r 以テ左式ノ方根ト為ス、

$$\frac{X_2}{2} = \frac{X}{(x-a)(x-b)} + \frac{X}{(x-a)(x-c)} + \dots + \frac{X}{(x-a)(x-n)}$$

又同一理
ヲ以テ次
式ヲ得
シ、

$$\frac{X_3}{2 \cdot 3} - \frac{X}{(x-a)(x-b)(x-c)} + \dots + \frac{X}{(x-a)(x-m)(x-n)}$$

以下各次ノ倍數比
之ニ準ス、

同方根

右式ノX中ニハ $x-a$ = 同シ
 キ因子 β ト、 $x-b$ = 同シキ因
 子 q ト、 $x-c$ = 同シキ因子 r
 トヲ含メルカ故ニ、其第一
 假複率ハ $\frac{X}{x-a}$ 率 β 倍、 $\frac{X}{x-b}$
 率 q 倍、 $\frac{X}{x-c}$ 率 r 倍ヲ有チ、
 兼テ $\frac{X}{x-m}$ $\frac{X}{x-n}$ 等ノ諸率ヲ
 有ツ可ク、而シテ單率方根
 = 符合ス可シ、(上章)即チ次
 式ノ如シ、

$$X_1 = \frac{\beta X}{x-a} + \frac{q X}{x-b} + \frac{r X}{x-c} + \dots + \frac{X}{x-m} + \frac{X}{x-n}$$

此式 X_1 ノ數
 價ヲ顯ス所
 ノ各率ハ、第
 一率ヲ除ク
 ノ外、 $(x-a)^{\beta}$ 因子
 ヲ有タル
 者ナシ、但シ
 第一率ハ除
 術ニ由テ、 $x-a$
 ト同因子ノ

數ノ中ノ一ヲ省キタル者トス故ニ X_1 各率ノ通
 因子タル $x-a$ ノ最高乘方ハ $(x-a)^{\beta}$ ナリ、
 又同一理ニ由テ $(x-b)^{q-1}$ $(x-c)^{r-1}$ X_1 ノ各率ニ通シタル
 $x-c$ ノ最高乘方ナリ、
 是故ニ、
 $(x-a)^{\beta-1} (x-b)^{q-1} (x-c)^{r-1}$
 ハ、本式ノ前項ト其第一假複率トハ間、

ニ在ル所ハ最大公倍数ナリ、

初メ本式ニ於テ若干ノ同方根アリト假定シタルヲ以テ、此最大公倍数アルハ當然ノ理ナリ、又之ヲ反覆スレハ、 X 及ヒ X_1 ノ間ニ公倍数アル時ハ、必ス本式所屬ノ方根若干アラサルヲ得ス、蓋シ $(x-a)^t$ ヲ以テ最大公倍数ノ一因子ト為セハ、則チ X_1 ノ成分ニ由テ $(x-a)^{t+1}$ ハ X ノ一因子タルヲ知ル可ク、又 a ハ $X=0$ 式ノ一方根クルト $t+1$ 回ト知ル可シ、是ニ由テ左ノ二條ヲ決定ス、

第一條 未知數 x 唯一ニシテ、其後項零ナル方程式ハ、其前項 X ト、第一假複率 X_1 トノ間ニ x ヲ有ツ所ノ公倍数アル時ハ、必ス同方根アル可キ事、

第二條 X 及ヒ X_1 ノ最大公倍数 D ハ X ノ雙率因子ノ積タル可キ事、但シ其雙率因子ハ、同方根ニ相應スル所ノ x ヲ以テ之ヲ視レハ、初來ノ者タル可ク、方根ハ某乗方ニシテ、其自來標ハ X 中ニ在ル所ノ者ヨリモ一箇少キ者タル可シ、或式中ニ同方根アルヤ、否ヤヲ了解シ、若シ之

ナ、二、
ル、四、
可、 $D=0$
シ、ノ、
餘、方、
皆、根、
之、ト、
ニ、為、
準、ル、
ス、者、
ハ、
 $X=0$
ノ、
方、
根、
タ、
ル、
一、
三、
四、

最大公倍數 D 中 $= (x-a)^t$ ノ如キ形狀ノ因子ヲ含ミ、
 其 t ハ一箇ヨリ大ナル整數ニシテ、 D ト其第一
 假複率トノ間ニ在ル最大公倍數ヲ D ト為セハ
 則チ D' 中 $= (x-a)^{t-1}$ ノ如キ因子ヲ含ム可ク、復タ D_1
 ヲ以テ D' ノ第一假複率ト為シ、 D'' ヲ以テ其最大
 公倍數ト為セハ、則チ D'' 中 $= (x-a)^{t-2}$ ノ如キ因子アル

可シ之ヲ反復スレハ、 $(x-a)$ ノ自乗標ハ毎一次一箇ヲ
 減シ、且ツ最大公倍数ノ度数モ亦隨テ一次ヲ減
 ス可シ、若シ $D=0$ 式ノ乗方高尚ニシテ之ヲ解ク
 能ハサレハ、同方根ヲ決定シテ漸次ニ乗方ノ次
 數ヲ減シ、結局解ク可キ者ト為シ、解式ノ法ニ從
 テ終ニ之ヲ得ヘキ者アリ、設如ハ左式アリ、

$$X=0$$

此最大
 公倍数
 次ノ如
 シ、

$$D=(x-a)^n(x-b)^n(x-c)$$

然レハ
 則チ D'
 次ノ如
 シ、

$$D'=(x-a)^{n-1}(x-b)^{n-1}$$

$$D''=(x-a)^{n-2}(x-b)^{n-2}$$

.....

$$D^{(n-1)}=(x-a)(x-b)$$

仍
 テ左
 式ヲ作
 ル、

$$D^{(n-1)}=(x-a)(x-b)=0$$

$$(x-a)^{n+1}(x-b)^{n+1}(x-c)^2$$

若
 シ
 ノ積ヲ以テ問題ノ式ヲ除スレハ、則チ乘

此式ニシテ
 $x=a$
 $x=b$
 ノ方根ヲ知ル時ハ、則チ
 之ヲ解クヲ得ハシ、而シテ
 $(x-a)^{n+1}$
 $(x-b)^{n+1}$
 $(x-c)^2$
 ハ
 Xノ因子ニシテ a b ハ各
 $X=0$ 式ノ方根タ
 ル
 $n+1$ 回ナリ
 0 ハ方根タルニ回ナリ、

方ノ次數ヲ減スル
 $2m+4$
 = 至ル可シ

設問

第一 左式ハ同方根ヲ含ムヤ否ヤ、若シ之ヲ含
 マハ、則チ如何、

$$x^4 - 2x^3 - 7x^2 + 2x - 12 = 0$$

此項
 ノ第一
 假複率
 ハ次
 如シ

$$4x^3 - 6x^2 - 14x + 20$$

本式ノ前項ト此假複率ト
 ノ間ニ在ル最大公倍數ハ
 $x-2$ ナルカ故ニ、 2 ハ其方根
 ト為ルニ二回而シテ本式
 ノ前項ハ
 $x-2$ ヲ以テ再ヒ之

ヲ除スルヲ得ヘク或ハ直ニ
 $(x-2)^2$ 即チ
 $x^2 - 4x + 4$ ヲ以テ
 一タヒ之ヲ除スルヲ得ヘシ、仍テ之ヲ除シテ
 其商ヲ見レハ、
 $x^2 + 2x - 3$ ナルカ故ニ、本式ハ則チ次ノ如

ク之ヲ記スルヲ得ヘシ、
 此式前項ノ兩因子ハ、各零ニ同シトシテ
 得ル所ノ x ノ數價ヲ以テ式ニ合ス可シ、
 其第一因子ヨリ得ル所ノ者ハ
 $x=1$
 $x=-3$ ナリ、是ニ
 其第二ヨリ得ル所ノ者ハ
 $x=2$
 $x=3$ ナリ、

$X = x^7 - 5x^6 - 2x^5 + 39x^4 - 31x^3 - 61x^2 + 96x - 36 = 0$

如次複此
シ、ノ率假

$X_1 = 7x^6 - 30x^5 - 10x^4 + 152x^3 - 93x^2 - 122x + 96$

$D = x^4 - 3x^3 - 3x^2 + 11x - 6$

$D_1 = 4x^3 - 9x^2 - 6x + 11$

$D' = x - 1$

ル 題 二 式 觀 是
三 式 回 ノ 方 ン 由
回 ノ 二 方 根 ハ、テ
ナ 方 シ 根 1 ハ、之
リ、根 テ、タ ハ、ヲ
タ 問 ル $D=0$

第五

左式ノ
方根ヲ
問フ、

第二

$x^5 + 2x^4 - 11x^3 - 8x^2 + 20x + 16 = 0$

第三

$x^5 - 2x^4 + 3x^3 - 7x^2 + 8x - 3 = 0$

第四

方根ヲ問フ、

次式ノ

$x^4 - 2x^3 - 11x^2 + 12x - 36 = 0$

由テ之ヲ觀レハ、問題ノ方程式ノ四方根ハ12

左式ノ同方根ヲ問フ、

今

$D'^2 = x^2 - 2x + 1$

ヲ

以

テ

$D = x^4 - 3x^3 - 3x^2 + 11x - 6$

ヲ

除

シ

テ

商

$x^2 - x - 6 = (x-3)(x+2)$

ヲ

得

ル

カ

故

ニ

左

式

ヲ

$D = (x-3)(x+2)(x-1)^2$ 得、

$X = (x-3)^2(x+2)^2(x-1)^3$

是故ニ問題式

ノ方根ヲ得ル

下ノ如シ、

3, 3,

-2, -2,

+1, +1, +1.

第四百三十六章 未知數單一ノ方程式アリ、今

之ヲ變シテ本式ノ方根ト變式ノ方根トヲ比フ

レハ、必ス一定ノ差ヲ成ス者ト為スヲ得ヘシ、

今 y ヲ以テ新未知數ト為シ、隨意

ニ x' ヲ設テ、以テ x, y 兩數價ノ間

ニ生ス可キ一定ノ差ト為セハ、則

チ左式ノ如シ、

$x = y + x'$

x ノ此數價ヲ以テ本式ニ

代用スレハ、則チ左ノ如シ、

リ、次比
式如
アハ

$x^m + Ax^{m-1} + Bx^{m-2} + Cx^{m-3} + \dots + Tx + U = 0$

$$(y+x')^m + A(y+x')^{m-1} + B(y+x')^{m-2} + \dots$$

如下ハ、立位ノテ
シ、式則ツ次和所得
ノヲ、ヲノ

x'^m	$y^0 + m x'^{m-1}$	$y + m \frac{m-2}{2} x'^{m-2}$	y
$+ A x'^{m-1}$	$+ A(m-1) x'^{m-2}$	$+ A(m-1) \frac{m-2}{2} x'^{m-3}$	
$+ B x'^{m-2}$	$+ B(m-2) x'^{m-3}$	$+ C(m-3) x'^{m-4}$	
$+ C x'^{m-3}$	$+ C(m-3) x'^{m-4}$	$+ B(m-2) \frac{m-3}{2} x'^{m-4}$	
\dots	\dots	\dots	
$+ T x'$			
$+ U$			

件シ
ヲテ
決定左
スノ
條

$$C(y+x')^{m-3} + \dots + T(y+x') + U = 0.$$

標加y解各ニ雙
ニ自ノ散率由率
從乘遞シ、ヲテ式

$$\left. \begin{aligned} &+ \dots + m \frac{m-1}{2} x'^2 \left| y^{m-2} + m x' \right| y^{m-1} + y^m \\ &+ A(m-1) x' \quad + A \\ &+ B \end{aligned} \right\} = 0 \text{ (壹)}$$

前此
項解
ヲ散
玩式
味ノ

第一條 變式ノ自由率、即チ y^0 ノ倍數ハ、 x ヲ以テ x' ニ代フレハ、則チ本式ノ前項ト為ル者ナリ、
 第一條 未知數ノ初乘 y ノ倍數ハ、 x ヲ以テ x' ニ代フレハ、則チ本式前項ノ第一假複率ト為ル者ナリ、

第三條 y^2 ノ倍數ハ2ヲ以テ之ヲ除シ、 x ヲ以テ x' ニ代フレハ、則チ本式前項ノ第一假複率ト為ル者ナリ、

第四條 總テ y^n ノ倍數ハ、一箇ヨリ n ニ至ルマテノ天然數相乘ノ積ヲ以テ之ヲ除シ、 x ヲ以テ

x' ニ代フレハ、則チ本式前項ノ第 n 假複率ト為ル者ナリ、

本式ノ前項及ヒ其各次ノ假複率ノ x ヲ x' ニ改メ、 x'_1, x'_2, x'_3 等ヲ以テ之ニ代用スレハ前ノ變式ハ次ノ如ク之ヲ記スルヲ得ヘシ、

$$x' + x'_1 y + \frac{x'_2}{1 \cdot 2} y^2 + \dots + \frac{x'_{m-2}}{1 \cdot 2 \dots (m-2)} y^{m-2} + \frac{x'_{m-1}}{1 \cdot 2 \dots (m-1)} y^{m-1} + y^m = 0.$$

即チ各率ノ位次ヲ反シテ下式ヲ得、

$$y^m + \frac{x'_{m-1}}{1 \cdot 2 \dots (m-1)} y^{m-1} + \frac{x'_{m-2}}{1 \cdot 2 \dots (m-2)} y^{m-2} + \dots + x'_1 y + x' = 0 \dots \dots (式)$$

第四百三十七章 上章ノ兩式壹式ヲ比較シテ

左ノ二式ヲ得

$$\frac{X'_{m-1}}{1 \cdot 2 \cdots (m-1)} = mx + A \cdots (貳)$$

$$\frac{X'_{m-2}}{1 \cdot 2 \cdots (m-2)} = m \frac{m-1}{2} x'^2 + A(m-1)x' + B \cdots (參)$$

壹式倍數ノ度ハ x' ヲ以テ之ヲ
視レハ右ヨリ左ニ進ムニ從テ
各率少クモ一箇ヲ増シ自由率
ニ至テハ則チ第 m 乗ナリ、
 x' ハ固ヨリ隨意數ナルカ故ニ、
正理ニ適當スル者ヲ以テ其數
價ニ充ツルヲ得ヘシ、仍テ其
倍數ノ一ヲ以テ零ト為ス x' ヲ

以テ未知數ト為シ、以テ式ヲ作レハ、則テ其方根
ハ、上章ノ變式式ニ於テ相當ノ一率ヲ脱ス可シ、
比如ハ $mx' + A = 0$ トスレ
ハ、 $x' = \frac{A}{m}$ ナリ、今 x'
ノ此數價ヲ以テ
式式ニ代用スレ
ハ、則テ其形次ノ
如クナル可シ、

$$y^m + \frac{X_{m-2}}{1 \cdot 2 \cdots (m-2)} y^{m-2} + \cdots + X_1 y + X = 0$$

是故ニ方程式ヲ變シ
テ、第二率ヲ闕ク者ト
為サント欲セハ、方
式ノ次數タル自乘標
ヲ、以テ第二率ノ倍數
ヲ、除スル者ニ負標ヲ、
附シ、以テ他ハ未知數
ニ代フ可シ、

代數學之概論

第四百三十八章

變式ノ第三率ハ、 x' ヲ以テ左

式ノ方根ノ一ニ同フスレハ、則チ之ヲ脱却スル

ヲ得ヘシ、

式中ノ m A B ハ自カラ一種ノ關涉アリ、

$x' = -\frac{A}{m}$ 以テ毎ニ式ニ合ス可シ、然レハ則

チ變式ノ第二率ヲ脱却シ得レハ、自カラ

第三率ヲ脱却スルヲ得ヘシ、此關涉ノ

何者タルヲ知ラント欲セハ、 x' ノ此數價

ヲ代用シテ左式ヲ得ヘシ、

$$m \frac{m-1}{2} x'^2 + A(m-1)x' + B = 0$$

若シ m A B ノ數價ヲ以テ此式ニ合スレハ、則チ

變式ノ第三率ハ第二率ト共ニ消失ス可シ、凡ソ

變式ノ第三率ヲ脱シテ、 x' ノ數價ヲ見ント欲ス

ル者ハ、必ス二次方程式ヲ解カサル可カラス、第

$$m \frac{m-2}{2} \cdot \frac{A^2}{m^2} - (m-1) \frac{A^2}{m} + B = 0$$

此式ヲ約シテ、結局ヘシ、下式ヲ得

$$\frac{m-1}{2} \cdot \frac{A^2}{m} - (m-1) \frac{A^2}{m} + B = 0$$

$$(m-1)A^2 - 2(m-1)A^2 + 2mB = 0$$

$$(m-1)A^2 = 2mB$$

$$A^2 = \frac{2mB}{m-1}$$

四率ヲ脱々ント欲スル者ハ、必ス三次方程式ヲ
 解カサル可カラス、凡ソ自由率ヲ消失セシメン
 ト欲スル者ハ、須ラク本式ヲ解ク可シ、

設問

第一 左式ヲ變シテ其第二率ヲ含マサル者ト
 為ス可シ、

$$x^2 + 2px - q = 0$$

上章ノ如ク、

$$x = y - \frac{2p}{2} = y - p$$

ト為シ、第四百三十六章

由テ左式ヲ得、

$$X' = (p)^2 - 2p(p) - q = -q - p^2$$

$$X'_1 = 2(p) - 2p = 0$$

$$\frac{X'_2}{2} = \frac{2}{2} = 1$$

故ニ求ムル所ノ式ハ如シ

$$y^2 - q - p^2 = 0$$

是ニ由リハ、次ノ如シ、

$$y = \pm \sqrt{q + p^2}$$

又 $x = y - p$ ナル故ニ x ノ

數價ハ次ノ法式ヲ以テ之ヲ見ル可シ、

$$x = -p \pm \sqrt{q + p^2}$$

即チ二次方程式ノ規則ニ由ル者ニ同シ

第二 左ノ方程式ヲ變シテ其第二率ヲ有タサ
ル者ト為ス可シ

$$x^3 + px^2 + qx + r = 0$$

$$x = y - \frac{p}{3}$$

$$X' = \left(-\frac{p}{3}\right)^3 + p\left(-\frac{p}{3}\right)^2 + q\left(-\frac{p}{3}\right) + r = -\frac{p^3}{27} + \frac{pq}{3} + r$$

$$X'_1 = 3\left(-\frac{p}{3}\right)^2 + 2p\left(-\frac{p}{3}\right) + q = -\frac{p^2}{3} + q$$

$$\frac{X'_2}{2} = \frac{2 \cdot 3 \left(-\frac{p}{3}\right)}{2} + \frac{2p}{2} = 0$$

$$\frac{X'_3}{2 \cdot 3} = \frac{2 \cdot 3}{2 \cdot 3} = 0$$

故ニ求ム
ル所ノ式
ハ則チ左
ノ如シ

第三 左ノ式ヲ變シテ未知數ノ二乗方ヲ有タ
サル者ト為ス可シ

$$y^3 - \left(\frac{p^2}{3} - q\right)y + \frac{2p^3}{27} - \frac{pq}{3} + r = 0$$

或ハ
 $\frac{p^2}{3} - q = m$
ト為セハ、則チ
 $\frac{2p^3}{27} - \frac{pq}{3} + r = n$
下式ノ如シ

$$y^3 - my + n = 0$$

$$x^3 - 6x^2 + 13x - 12 = 0$$

$$x = 2 + y$$

$$X' = (2)^3 - 6(2)^2 + 13(2) - 12 = -2$$

$$X'_1 = 3(2)^2 - 12(2) + 13 = +1$$

$$\frac{X'_2}{2} = 3(2)^1 - 6 = 0$$

$$\frac{X'_3}{2 \cdot 3} = 1$$

シ、ノ式ニ是
如下變故

$$y^3 + y - 2 = 0$$

可
シ、

第
四

左
式

ヲ
變

シ
テ

其
第

二
率

ヲ
關

ノ
者

ト
為

ス

$$x^4 - 12x^3 + 17x^2 - 9x + 7 = 0$$

ナ ハ ト 即 リ 章 二 第
リ、 $x' = 3$ 為 子
 $m = 4$ セ $x = 3 + y$ $x = y - \frac{12}{4}$ 由 七 百

$$X' = (3)^4 - 12(3)^3 + 17(3)^2 - 9(3) + 7 = -110$$

$$X'_1 = 4(3)^3 - 36(3)^2 + 34(3) - 9 = -123$$

$$\frac{X'_2}{2} = 6(3) - 36(3) + 17 = -37$$

$$X'_3 = 4(3)^1 - 12 = 0$$

シ、ノ式所ハニ是
如下ノル求故

$$y^4 - 37y^2 - 123y - 110 = 0$$

第五 左式ヲ變シテ其方根二箇ヲ減スル者ト
為ス可シ、

$$x^4 - 4x^3 - 8x + 32 = 0$$

$$x = 2 + y$$

答

$$y^4 + 4y^3 - 24y = 0$$

此變式ハ一率モ y ニ關セサル者ナキカ故ニ、其
方根ハ零ナリ、是ニ由テ之ヲ觀レハ、本式ノ方根
ハ二ナリ、

第六 次式ヲ變

シテ、其方根三箇

ヲ増ス者ト為ス

可シ、

$$x^4 + 16x^3 + 99x^2 + 228x + 144 = 0$$

第七 下式ヲ變

シテ、其第二率ヲ

闕漏スル者ト為

ス可シ、

$$x^4 - 8x^3 + x^2 + 82x - 60 = 0$$

第四百三十九章

茲ニ第四百三十六章ノ變式

戈ヲ再出ス、

$$\begin{aligned}
 &x^m + Ax^{m-1} + Bx^{m-2} + \dots + Sx^2 + Tx + U \\
 &= (x-x')^m + \frac{X_{m-1}}{1 \cdot 2 \dots (m-1)} (x-x')^{m-1} + \dots \\
 &\quad + \frac{X'_3}{2 \cdot 3} (x-x')^3 + \frac{X'_2}{2} (x-x')^2 + X'_1 (x-x') + X'
 \end{aligned}$$

如シ、 $X' =$ シテ其商ハ下ノ

$$\begin{aligned}
 &(x-x')^{m-1} + \frac{X'_{m-1}}{1 \cdot 2 \dots (m-1)} (x-x')^{m-2} + \dots \\
 &\quad + \frac{X'_3}{2 \cdot 3} (x-x')^2 + \frac{X'_2}{2} (x-x') + X'_1
 \end{aligned}$$

是ニ由テ一致式ヲ得ルヲ左ノ如シ、

此式ノ前項ハ何ノ數ヲ以テ之ヲ除スル氏、其商及ヒ殘數ハ同數ヲ以テ後項ヲ除スル者ニ同シカル可シ、仍

是ニ由テ一致式ヲ得ルヲ左ノ如シ、

$$\begin{aligned}
 &y^m + \frac{X'_{m-1}}{1 \cdot 2 \dots (m-1)} y^{m-1} + \dots + \frac{X'_3}{2 \cdot 3} y^3 + \frac{X'_2}{2} y^2 + X'_1 y + X' = 0 \\
 &(x-x')^m + \frac{X'_{m-1}}{1 \cdot 2 \dots (m-1)} (x-x')^{m-1} + \dots \\
 &\quad + \frac{X'_3}{2 \cdot 3} (x-x')^3 + \frac{X'_2}{2} (x-x')^2 + X'_1 (x-x') + X'
 \end{aligned}$$

如シ、 $X' =$ シテ其商ハ下ノ

是ニ由テ一致式ヲ得ルヲ左ノ如シ、

此式ノ前項ハ何ノ數ヲ以テ之ヲ除スル氏、其商及ヒ殘數ハ同數ヲ以テ後項ヲ除スル者ニ同シ、仍

是ニ由テ一致式ヲ得ルヲ左ノ如シ、

再ヒ $x-x'$ ヲ
 ヲ除スレ
 ハ、其第二
 殘數ハ X'_1
 ニシテ、其
 商ハ次ノ
 如シ、

$$(x-x')^{m-2} + \frac{X'_{m-1}}{1 \cdot 2 \cdots (m-1)} (x-x')^{m-3} + \cdots + \frac{X'_3}{2 \cdot 3} (x-x') + \frac{X'_2}{2}$$

以下斯ノ如ク之ヲ除スレハ、毎
 次ノ商ハ即チ變式或ノ倍數ニ
 シテ其第一商ハ自由率即チ y^0
 ノ倍數ナルハ、論ヲ俟タサルカ
 故ニ、數次此術ヲ施スハ固ヨリ
 無用ノ業タル可シ、但シ變式ノ
 方根若シ本式ノ方根ヨリモ少
 キ一一定ノ差 x' ノ如キ時ハ、 $x-x'$
 ヲ以テ除術ノ法ト為ス可ク、若
 シ其多キ x' ナル時ハ、 $x+x'$ ヲ以

テ法ト為ス可シ、

是ニ由テ之ヲ觀ルハ、方程式ヲ變シテ其方根ヲ
 本式ノ方根ヨリモ多少アル者ト為サント欲セ
 ば、則チ左ノ法則ニ從フ可シ、

第一則 本式ノ後項ヲ零トシ、 x ト兩式方根ノ
 定差トヲ加ヘタル者ヲ以テ其前項ヲ除シテ其
 殘數 x ニ關セサルニ至リ而シテ後ニ同數ヲ以
 テ再ヒ其商ヲ除スルヲ前ノ如ク再三數次之ヲ
 反復シテ m 次ニ至ル可シ、

第二則 變式ヲ記スルニ毎次ノ除殘ヲ以テ未

知、數、各、次、乘、方、ハ、倍、數、ト、為、シ、零、乘、方、ヨ、リ、之、ヲ、始、
ム、可、シ、

右法則中ニ加ヘタル者トハ即チ代數和ノ意タルヲ記心ス可ク又第 m 次除術ノ商ハ即チ本式 x^m ノ倍數ニシテ變式未知數ノ乘方最高ナル者ノ倍數タルハ一思シテ之ヲ知ル可シ

設問

第一 左式ヲ變シテ其方根本式ヨリモ二箇少キ者ト為ス可シ

$$x^4 - 4x^3 - 8x + 32 = 0$$

術

$$(x-2)x^4 - 4x^3 - 8x + 32 (x^3 - 2x^2 - 4x - 16)$$

$$x^4 - 2x^3$$

$$-2x^3 - 8x$$

$$-2x^3 + 4x^2$$

$$-4x^2 - 8x$$

$$-4x^2 + 8x$$

$$-16x + 32$$

$$-16x + 32$$

$$0 = X'$$

$$(x=2)x^3 - 2x^2 - 4x - 16 (x^2 - 4$$

$$x^3 - 2x^2$$

$$-4x - 16$$

$$-4x - 8$$

$$-24 = X'_1$$

此問ハ前章第五ノ例ニ同シキカ故ニ

即チ
 $y = x - 2$
ニシテ其術左ノ如シ

$$x = 2 + y$$

$$x^4 - 12x^3 + 17x^2 - 9x + 7 = 0$$

$$x = y + 3 \quad y = x - 3$$

術

$$\begin{array}{r} (x-3)x^4 - 12x^3 + 17x^2 - 9x + 7 \quad (x^3 - 9x^2 - 10x - 39) \\ \underline{x^4 - 3x^3} \\ -9x^3 + 17x^2 \\ \underline{-9x^3 + 27x^2} \\ -10x^2 - 9x \\ \underline{-10x^2 - 30x} \\ -39x + 7 \\ \underline{-39x + 117} \\ 110 = X' \end{array}$$

第一殘

第二
ス可シ
左式ヲ變シテ方根三箇ヲ減スル者ト為

$$y^4 + 4y^3 + 0y^2 - 24y + 0 = 0$$

$$(x-2)x^2 - 4(x+2)$$

$$\begin{array}{r} x^2 - 2x \\ \underline{-2x - 4} \\ -2x - 4 \\ \hline 0 = \frac{X'_2}{1 \cdot 2} \end{array}$$

或ハ前

如

ク、

$$y^4 + 4y^3 - 24y = 0$$

$$(x-2)x + 2(1)$$

$$\begin{array}{r} x - 2 \\ \hline 4 = \frac{X'_3}{2 \cdot 3} \end{array}$$

如シ、是故ニ變式ヲ注

$$\begin{array}{r}
 x-3) x^3 - 9x^2 - 10x - 39 \quad (x^2 - 6x - 28 \\
 \underline{x^3 - 3x^2} \\
 -6x^2 - 10x \\
 \underline{-6x^2 + 18x} \\
 -28x - 39 \\
 \underline{-28x + 84} \\
 -123 = X_1 \quad \text{第二殘}
 \end{array}$$

$$\begin{array}{r}
 x-3) x-3(1 \\
 \underline{x-3} \\
 0 = \frac{X'_3}{2 \cdot 3} \quad \text{第三殘}
 \end{array}$$

$$\begin{array}{r}
 x-3) x^2 - 6x - 28 \quad (x-3 \\
 \underline{x^2 - 3x} \\
 -3x - 28 \\
 \underline{-3x - 9} \\
 -37 = \frac{X'_2}{2} \quad \text{第三殘}
 \end{array}$$

是、由、求、ル、所、變、式、ノ、如、下、

$$y^4 + 0y^3 - 37y^2 - 123y - 110 = 0$$

凡ソ四次方程式ヲ變スル時ハ四殘ヲ得ヘク、五次方程式ヲ變スル時ハ五殘ヲ得ヘシ、概シテ之ヲ言ヘハ、凡次方程式ヲ變スル時ハ、凡殘ヲ得ヘキナリ、

本章ニ論スル所ノ除術ヲ以テ方程式ヲ變化スルニ本則ニ從ノ時ハ、實際極メテ煩難ナリト雖、後ニ論スル所ノ合成除法ヲ用フレハ、大ニ簡易ナル可シ、
今此除法ヲ論スルニ方テ、先ツ分裂乗除ノ法ヲ説カサル可カラス、

分裂乗除

第四百四十章 兩複率アリ、互ニ同質ナル時、其積モ亦同質ナリ、而シテ積ノ次數ヲ示ス所ノ數ハ兩因子ノ次數ヲ示ス所ノ數ノ和ニ同シ、又若シ複率僅ニ二字ヲ以テ成リ、兩因子同字ニ從テ位次ヲ立ツル者ハ、其積ノ位次モ亦同字ニ從テ可シ、是ニ由テ兩因子相乗ノ術ニ於テ倍數ノ積ハ其所属ノ字因ニ關セサルヲ以テ、此等ノ倍數ヲ分裂シ、各自ノ標記ヲ附シ、固有ノ位次ニ從テ之ヲ書シ、以テ乗除ノ術ヲ施スル恰モ複率相

乗ノ法ノ如シ、斯ノ如ク字因數因兩部ノ積ヲ作リ、周密ニ注目シテ位次ヲ謬ルヲ無ク兩部ヲ合マレハ、則チ複率相乗ノ積ヲ得ヘシ、

設問

第一

$$a^2 + 2ax + x^2$$

=

$$a + x$$

ヲ乗ス可シ、

術

$$1 + 2 + 1$$

數倍實

$$1 + 1$$

數倍法

$$1 + 2 + 1$$

$$1 + 2 + 1$$

$$1 + 3 + 3 + 1$$

數倍積

今此各率ニ各自ノ字因ヲ附スレハ、則チ下ノ積ヲ得ヘシ、

$$a^3 + 3a^2x + 3ax^2 + x^3$$

$$x^3 + 2x^2 + 0x - 1$$

$$x^2 + 0x + 2$$

術

$$1 + 2 + 0 - 1$$

$$1 + 0 + 2$$

$$1 + 2 + 0 - 1$$

$$2 + 4 + 0 - 2$$

$$1 + 2 + 2 + 3 + 0 - 2$$

積

$$x^5 + 2x^4 + 2x^3 + 3x^2 + 0x - 2$$

即

$$x^5 + 2x^4 + 2x^3 + 3x^2 - 2$$

答

此兩因子ニハ關漏アルヲ以テ之ヲ補充スル
 1 左ノ如シ、

第三

$$x^3 + 2x^2 - 1$$

$$=$$

$$x^2 + 2$$

ヲ衆ス可シ、

若シ各因子ノ字因中ニ最高最低衆方ノ中間ニ
 一率ノ衆方ヲ關ク時ハ其衆方ニ倍數0ヲ附シ
 テ之ヲ補ハサル可カラス、

術

$$3 - 2 - 1$$

$$3 + 2$$

$$9 - 6 - 3$$

$$+ 6 - 4 - 2$$

$$9 + 0 - 7 - 2$$

由是
 テニ

$$9x^3 + 0x^2 - 7x - 2$$

即

チ

$$9x^3 - 7x - 2$$

答

第二

$$3x^2 - 2x - 1$$

$$=$$

$$3x + 2$$

ヲ衆ス可シ、

第一

$$a^4 - 3a^3x - 8a^2x^2 + 18ax^3 + 16x^4 \div a^2 - 2ax - 2x^2$$

術

$$\begin{array}{r|l} 1-3-8+18+16 & 1-2-2 \\ 1-2-2 & 1 \quad 1-8 \\ \hline -1-6+18 & \\ 1+2+2 & \\ \hline -8+16+16 & \\ -8+16+16 & \end{array}$$

商ヲ得、
是ニ由
テ、
次ノ

$$a^2 - ax - 8x^2$$

設問

第四百四十一章 倍數ヲ分裂シテ衆術ヲ施ス
 1ヲ得、ハ、又同一理ニ由テ之ヲ除術ニ用フル
 1ヲ得ヘシ、除術ノ法實共ニ二字ニシテ同質ナ
 ル時ハ、其商ノ次數ハ實ノ次數、法ノ次數ニ勝ル
 ノ數ニ同シカル可シ、

第四

$$(3x^2 - 2x - 1) \times (4x + 2)$$

第五

$$(3x^2 - 5x + 10) \times (2x - 4)$$

第六

$$(x^2 + xy + y^2) \times (x^2 - xy + y^2)$$

第七

$$(x^3 - 2x^2 + 5x - 2) \times (x^2 + 4x - 3)$$

第三

$$x^5 - 4x^4 - 17x^3 - 13x^2 - 11x - 10 \div x^2 - 3x - 2$$

術

$$\begin{array}{r} 1-4-17-13-11-10 \quad | \quad 1+3+2 \\ 1+3+2 \quad \quad \quad 1-7+2-5 \\ \hline -7-19-13 \\ -7-21-14 \\ \hline +2+1-11 \\ +2+6+4 \\ \hline -5-15-10 \\ -5-15-10 \\ \hline \end{array}$$

得商下仍
ヲノテ

$$x^3 - 7x^2 + 2x - 5$$

第二

$$a^5 - 5a^3b^2 + a^2b^3 + 6ab^4 - 2b^5 \div a^3 - 3ab^2 + b^3$$

術

$$\begin{array}{r} 1+0-5+1+6-2 \quad | \quad 1+0-3+1 \\ 1+0-3+1 \quad \quad \quad 1+0-2 \\ \hline 0-2+0+6-2 \\ -2+0+6-2 \\ \hline \end{array}$$

如下此故
シノ商ニ

$$a^2 + 0ab - 2b^2$$

即
チ

$$a^2 - 2b^2$$

此例ニ於テハ實ニ
ヲ加ヘテ以テ闕漏ヲ補ハサル可
カ
ラス、其術ハ則チ左ノ如シ、

代數學卷之六

若シ法實共ニ單一字ニシテ中間ニ闕率アル時ハ、0ヲ以テ補率ノ倍數ト為シ以テ之ニ挿入ス可シ、

上ノ例ニ於テハ只倍ニ分裂倍數ノ除法ヲ説明スルヲ以テ目的ト為スカ故ニ毎例倍數ヲ整數ト為シ、法ノ第一率ノ倍數ヲ一箇ト為スト雖、此等ノ諸倍數ハ固ヨリ何ノ數タルヲ論セス、術ニ於テ更ニ異ナル所ナシ、但シ法ノ第一率ノ倍數若シ一箇ニアラサル時ハ、其數ヲ以テ法ト實トヲ除シテ以テ一箇ト為ス可シ、然レハ則チ商

ノ第一率ハ實ノ第一率ト倍數符合スルノ前ノ諸例ニ於ケルカ如シ、

合成除法

第四百四十二章 合成除法ヲ説明シ、且ツ其施術ノ法則ヲ立テンカ為ニ、茲ニ復タ前章ノ第一問ヲ用フ、若シ法ノ第二及ヒ第三率ノ標記ヲ換フル時ハ、各殘數ハ此二率ニ商率ヲ乘シタル積ニ、實ノ相當率ヲ加ヘテ以テ之ヲ見ル可シ、蓋シ法ノ第一率ヲ商ノ第一率ニ乘スレハ、其積ハ實

ノ第一率ト相等シキハ此術ノ本性ナルカ故ナリ、且ツ夫レ法ノ第一率ハ一箇ナルカ故ニ商率ハ其所属ノ部實ノ第一率ニ同シ、今其術ヲ示ス

$$\begin{array}{r}
 1-3 \quad 8+18 \quad 16 \quad | \quad 1+2 \quad 2 \\
 2-2-16 \\
 \hline
 2-2-16 \\
 1-1-8 \quad 0 \quad 0
 \end{array}$$

仍テ本商ナルヲ前ノ如シ、

$$a^2 - ax - 8x^2$$

是ニ於テ法ノ標記ヲ變シテ後ニ法實ヲ記スル

一常法ノ如ク、而シテ實ノ下ニ二列ヲ隔テ、横線ヲ引キ實ノ第一率ヲ線下ニ下シテ以テ商ノ第一率ト為シ、次ニ商ノ第一率ヲ以テ法ノ第二第三率ニ乗シタル第一積ヲ實ノ第二率ノ下テル第一列ニ記シ、第二積ヲ第三率ノ下ナル第二列ニ記シ、第二率ノ一行ヲ合シテ其和ヲ商ノ第二率ト為シ、次ニ法ノ第二第三率ニ商ノ第二率ヲ乗シ、其第一積ヲ實ノ第三率ノ下ニ第一列ニ記シ、第二積ヲ實ノ第四率ノ下ニ第二列ニ記シ、第三率ノ一行ヲ合シテ其和ヲ商ノ第三率ト為

ス可シ、其以下第四第五行ハ共ニ零ト為ル可シ、
又前章第三例ノ術ハ則チ左ノ如シ、

$$\begin{array}{r}
 1-4-17-13-11-10 \quad | \quad 1-3-2 \\
 -3+21-6+15 \\
 \hline
 -2+14-4+10 \\
 1-7+2-5 \quad 0 \quad 0
 \end{array}$$

仍
テ
其
商
下
ノ
如
シ、

$$x^3 - 7x^2 - 2x - 5$$

今此二例ヲ推シテ次ノ總則ヲ解得スルハ、亦難
キニ非サル可シ、

第一則 法ノ位次ヲ正シテ其第一率ノ倍数若
シ一箇ニ非ル時ハ其倍数ヲ以テ法ト實トヲ除
シ以テ之ヲ一箇ト為ス可シ、
第二則 法實兩數ノ倍数ヲ分裂シテ常ノ如ク
之ヲ記ス可シ但シ法ノ第一率ヲ除ク外以下
諸率ノ標記ヲ變更ス可シ次ニ數列ヲ隔テ、横
線ヲ引ク可シ此間隔ノ列數ハ法ノ率數ヨリモ
一箇少キヲ以テ適度ト為ス次ニ實ノ第一率ヲ
其直下ニ下シテ横線ノ下ニ書シ之ヲ第一行ト
見做シテ以テ商ノ第一率ト為フ可シ、

第三則 法ハ第二第三率等ニ商ハ第一率ヲ乗
 シ、其積ヲ實ノ第二第三率等ノ下ニ於テ第一
 第二列等ニ書ス可シ次ニ第二行ノ和ヲ線下ニ
 記シテ以テ商ノ第二率ト為ス可シ
 第四則 前ノ如ク法ノ第一率ヲ除クハ外諸率
 ニ商ノ第二率ヲ乗シ其諸積ヲ實ノ第三率ノ下
 ヲリ始メテ各列ニ記シ第三行ノ和ヲ線下ニ下
 シテ以テ商ノ第三率ト為ス可シ
 第五則 上ノ如ク術ヲ反復シテ一行ノ和ハ零
 ト為ルニ至ル可シ而シテ本實若シ整除ス可キ

者ハレハ則チ其以下諸行ノ和ハ皆零トナル可
 シ若シ否サレハ尚ホ術ヲ反復シテ要用ナル小
 數ヲ得テ真數ニ接近スルニ至テ止ミ所得ノ商
 ナル倍數ニ適當ノ字因ヲ附ス可シ
 合成除法ヲ實用スルニ方テ法ノ第一率ハ一箇
 ニシテ術中無用ニ屬スルカ故ニ強テ之ヲ記ス
 ルヲ要セス

設問
 第一 $1+x$ ヲ以テ $1-x$ ヲ除スレハ如何
 第二 $1+x$ ヲ以テ 1 ヲ除スレハ如何

第一

$x^4 - 4x^3 - 8x + 32 = 0$

此式ヲ變シテ、方根二箇ヲ減スル所ノ別式ト為ス可シ、

術一第

設ク、本式中 x 、二乗方ヲ見サルカ故ニ、茲ニ之ヲ
 $1 - 4 \pm 0 - 8 + 32 \mid 2 \pm 0$
 $2 - 4 - 8 - 32$
 $1 - 2 - 4 - 16, 0 = X'$

術二第

テ其倍數ト為サバ、ル可カラズ、
 $1 - 2 - 4 - 16 \mid 2$
 $2 \pm 0 - 8$
 $1 \pm 0 - 4 - 24 = X'_1$

術三第

$1 \pm 0 - 4 \mid 2$
 $2 + 4$
 $1 + 2, 0 = \frac{X'_2}{2}$

三第

$a^5 - 5a^4x + 10a^3x^2 - 10a^2x^3 + 5ax^4 - x^5 \div a^2 - 2ax + x^3$

四第

$x^6 - 5x^5 + 15x^4 - 24x^3 + 27x^2 - 13x + 5 \div x^4 - 2x^3 + 4x^2 - 2x + 1$

五第

$x^7 - y^7 \div x - y$

第四百四十三章 方程式ヲ變シテ、方根ノ増減定數アル所ノ別式ト為サント欲スル時ハ、亦合
成除法ヲ用テ大ニ便宜ヲ得ヘシ、其例左ノ如シ、

術四第

$$\begin{array}{r} 1+2 \overline{) 2} \\ 2 \\ \hline 1, +4 = \frac{X'_3}{2 \cdot 3} \end{array}$$

如式仍
下ノテ變

$$y^4 + 4y^3 - 24y = 0$$

又上ノ數術ヲ合一シテ左ノ如ク之行フ

術

$$\begin{array}{r} 1-4 \pm 0-8+32 \overline{) 2} \\ 2-4-8-32 \\ \hline -2 \quad 4-16, \quad 0=X' \\ 2 \quad 0-8 \\ \hline 0-4, -24=X'_1 \\ 2 \quad 4 \\ 2, \quad 0 = \frac{X'_2}{2} \\ 2 \\ 4 = \frac{X'_3}{2 \cdot 3} \end{array}$$

第二

$$x^4 - 12x^3 + 17x^2 - 9x + 7 = 0$$

此式ヲ變シテ、方根三箇ヲ減スル者ト為ス可シ、

此畧術ノ理ヲ解セント欲セハ、宜シク左ノ二件ヲ記憶ス可シ、曰ク每術ノ法、總テ同一ノ事、曰ク每術實ノ第一率1ハ之ヲ書スルモ、左傍ノ一行ニ落ツルヲ以テ之ヲ省ク事、

第三

術

$$x^3 - 12x - 28 = 0 \quad 1 \quad 0 \quad -12 \quad -28 \quad | \quad 3$$

$$\begin{array}{r} + 3 - 27 - 30 - 117 \\ - 9 - 10 - 39 - 110 = X' \end{array}$$

$$\begin{array}{r} + 3 - 18 - 84 \\ - 6 - 28 - 123 = X'_1 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} + 3 - 9 \\ - 3 - 37 = \frac{X'_2}{2} \end{array}$$

$$\begin{array}{r} + 3 \\ 0 = \frac{X'_3}{2 \cdot 3} \end{array}$$

此式ヲ變シテ方根四箇ヲ減スル者
ト為ス可シ、

$$y^4 + 0y^3 - 37y^2 + 123y - 110 = 0$$

此式ヲ變シテ方根四箇ヲ減スル者
ト為ス可シ、

$$x = y + 4$$

ト為ス可シ、

術

第四

$$x^3 - 10x^2 + 3x - 6946 = 0 \quad 1 \quad 0 \quad -12 \quad -28 \quad | \quad 4$$

$$\begin{array}{r} 4 \quad + 16 \quad + 16 \\ 4 \quad 4 \quad 12 = X' \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 4 \quad 32 \\ 8 \quad 36 = X'_1 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 4 \\ 12 = \frac{X'_2}{2} \end{array}$$

此式ヲ變シテ方根二十箇ヲ減スル
者ト為ス可シ、

$$y^3 + 12y^2 + 36y - 12 = 0$$

此ニ於テ
ト為ス可シ、

此式ヲ變シテ方根二十箇ヲ減スル
者ト為ス可シ、

術

$$\begin{array}{r}
 1 - 10 \quad 3 - 6946 \mid 20 \\
 \quad 20 \quad 200 \quad 4060 \\
 \quad 10 \quad 203 \quad -2886 \\
 \quad 20 \quad 600 \\
 \quad 30 \quad 803 \\
 \quad 20 \\
 \quad 50
 \end{array}$$

茲ニ複線ヲ附
スル者ハ即チ
三次ノ殘數ナ
リ、仍テ下ノ變
式ヲ得、

$$y^3 + 5y^2 + 803y - 2886 = 0$$

第五

簡ヲ減スル者ト為ス可シ、
右所得ノ變式ヲ復タ變シテ、更ニ方根ニ

此ニ於テ
 $y = 3 + x$
ト為ス可シ、

術

$$\begin{array}{r}
 1 \quad 50 \quad 803 \quad -2886 \mid 3 \\
 \quad \quad 3 \quad 159 \quad +2886 \\
 \quad \quad 53 \quad 962 \quad 0 \\
 \quad \quad 3 \quad 168 \\
 \quad \quad 56 \quad 1130 \\
 \quad \quad 3 \\
 \quad \quad 59
 \end{array}$$

仍テ變
式下ノ
如シ、

$$x^3 + 59x^2 + 1130x = 0$$

此式ニ於テ
 $x = 0$
ト為シ
以テ次式ヲ得ヘシ、
 $y = 3$

$$x = 20 + 3 = 23$$

第四百四十四章 單ニ未知一數ノ方程式ヲ取

り、交、隔率ノ標記ヲ變更スル時ハ、方根ノ標記悉ク變化ス可シ、

比
如
ハ
次ノ通
式
アリ、

$$x^m + Ax^{m-1} + Bx^{m-2} + \dots + Tx + U = 0 \dots (一)$$

更 ス、	ノ 標 記 ヲ 變	始 メ テ 隔 率	第 二 率 ヨ リ	ス、 茲 ニ 先 ツ	順 序 ニ 拘 ラ	各 率 標 記 ノ
---------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	------------------------	-----------------------	-----------------------

$$x^m - Ax^{m-1} + Bx^{m-2} - \dots \pm Tx \mp U = 0 \dots (二)$$

シ、	下 ノ 如	ル 時 ハ	リ 始 ム	一 率 ヨ	若 シ 第
----	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

$$x^m + Ax^{m-1} - Bx^{m-2} + \dots \mp Tx \pm U = 0 \dots (三)$$

今若シ壹式ノ方根ヲ a ト為シ、之ヲ x ニ代用スレハ則チ前項零一為ル可シ、詳ニ之ヲ解スレハ、正數ノ和ハ負數ノ和ト相同シキナリ、然リト雖氏若シ $-a$ ヲ以テ貳參兩式ノ x ニ代用スレハ、兩式各率ノ數價ハ壹式ノ同率ニ同シカル可シ、而シテ m 若シ偶數ナル時ハ、貳式各率ノ標記ハ壹式同率ノ標記ト相同シク、參式ハ之ニ反ス可シ、又 m 若シ奇數ナル時ハ、標記ノ變更全ク前ニ反ス可シ、然リ而シテ壹式ノ方根 a ナル時ハ、貳參兩式ノ方根ハ共ニ $-a$ ト為ルナリ、

斯ノ如ク隔率交代ノ標記ヲ變更スル時ハ、方根ノ標記相反ス、是ニ由テ之ヲ觀レハ悉ク諸率ノ標記ヲ變更スル時ハ更ニ標記ヲ變スルヲ無キヲ知ル可シ、

設問

第一

$$x^3 - 7x^2 + 13x - 3 = 0$$

ノ方根
3

$$2 + \sqrt{3}$$

$$2 - \sqrt{3}$$

ナレハ

$$x^3 + 7x^2 + 17x + 3 = 0$$

ノ方根幾許、

第二

$$x^4 - 3x^3 + 3x^2 + 17x - 18 = 0$$

ノ方根
1

-2

$$2 + \sqrt{-5}$$

$$2 - \sqrt{-5}$$

ナレハ

$$x^4 + 3x^3 + 3x^2 - 17x - 18 = 0$$

ノ方根幾許、

第四百四十五章 方程式ノ係數悉ク適合數ナル時ハ、不開方根之ニ交ルヲ必ス一對ナル可シ、方程式ノ係數悉ク眞數ナル時ハ想像方根之ニ交ルヲ必ス一對ナル可シ、比如ハ左式ノ係數 A B … U ヲ以テ眞數適合數

$$a^m \pm m a^{m-1} \cdot \sqrt{\pm b} + m \frac{m-1}{2} a^{m-2} \cdot (\sqrt{\pm b})^2 \\ \pm \dots \pm (\sqrt{\pm b})^m,$$

$$A a^{m-1} \pm A(m-1) a^{m-2} \cdot \sqrt{\pm b} + A(m-1) \frac{m-2}{2} a^{m-3} \cdot (\sqrt{\pm b})^2 \\ A a^{m-1} \pm A(m-1) a^{m-2} \cdot \sqrt{\pm b} + A(m-1) \frac{m-2}{2} a^{m-3} \cdot (\sqrt{\pm b})^2$$

$$B a^{m-2} \pm B(m-2) a^{m-3} \cdot \sqrt{\pm b} + B(m-2) \frac{m-4}{2} a^{m-4} \cdot (\sqrt{\pm b})^2 \\ \pm \dots \pm (\sqrt{\pm b})^{m-2},$$

$$T a \pm T \sqrt{\pm b},$$

U.

標ト知ル可シ、ナル者ハ則チ加ス可ク、若シ偶數ナル者ニ之ヲ附只其自乘標奇數等ニ於テ士標ハ各次ノ終率 $\pm(\sqrt{\pm b})^m$ $\pm(\sqrt{\pm b})^{m-1}$

$$x^m + A x^{m-1} + B x^{m-2} + \dots + T x + U = 0 \dots (壹)$$

ト為ス、

次代此シ、テ方此
式用數 x $a \pm \sqrt{\pm b}$ 根式
ヲシ價ヲトヲノ
得、テ = 以 為 以 一

$$\left. \begin{aligned} & (a \pm \sqrt{\pm b})^m + A(a \pm \sqrt{\pm b})^{m-1} + B(a \pm \sqrt{\pm b})^{m-2} \\ & + \dots + T(a \pm \sqrt{\pm b}) + U \end{aligned} \right\} \dots (貳)$$

雙率法式ヲ以テ此
式ノ各式ヲ解散シ
テ左式ヲ得、

若シ壹式ノ方根ヲ以テ $a + \sqrt{b}$ ト為ス時ハ、解散式ノ

諸率ハ則チ必ス適合數及ヒ不開數ノ兩部ヨリ
成ル者タル可ク、其適合部ハ即チ \sqrt{b} ノ偶數乗方
及ヒ零乗方ヲ以テ因子ト為ス所ノ各率ノ代數
和ナル可シ、今此部ヲ名ツケテ M ト為ス、
其不合部ハ \sqrt{b} ノ奇數乗方ヲ以テ因子ト為ス所
ノ各率ノ代數和タル可シ、然リ而シテ $(\sqrt{b})^3 = b\sqrt{b}$
 $(\sqrt{b})^5 = b^2\sqrt{b}$ ナ
ルカ故ニ、此部諸率ノ和ハ、以テ $N\sqrt{b}$ ノ單率ト為ス

可ク、而シテ N ハ \sqrt{b} ノ倍數ノ代數和ナリ、且ツ夫

レ壹式ノ方根ハ $a + \sqrt{b}$ ト假定スルカ故ニ、貳式ヲ約

シテ左ノ如クナル可シ、

$$M + N\sqrt{b} = 0 \dots (\text{參})$$

此式タルヤ $M=0$ $N=0$ ナルニ非サレハ、則チ適
合ス可カラサル者トス、(第二百七十二章
第四性)

貳式ヲ變シテ參式ヲ作ルニ方テ貳式解散諸率
ノ上標ヲ用フ、若シ式中及ヒ其諸率解散ニ於テ

下標ヲ用フレハ、則チ壹式ノ方根ヲ $a - \sqrt{b}$ ト假定シ

タルニ異ナラス、然レハ則チ次式ヲ得ヘシ、

式中 MN ハ固ヨリ参式ニ同シ、故ニ壹式

$$M - N\sqrt{b} = 0 \dots (肆)$$

中 $a + \sqrt{b}$ ノ方根アレハ、亦必ス $a - \sqrt{b}$ ノ方根アル可シ、

今又壹式ノ方根ヲ以テ $a + \sqrt{-b}$ ト假定スル時ハ、 \sqrt{b} ノ

偶數乗方ハ眞數ニシテ、奇數乗方ハ想像數ナル

カ故ニ貳式ノ前項ヲ解散スル時ハ、眞數及ヒ想像數ノ兩部ヲ以テ成ル者タル可シ、今其眞數部ヲ以テ M' ト為ス、

其想像部ハ $\sqrt{-b}$ ノ奇數乗方ヲ以テ因子ト為ス所

ノ各率ノ代數和ナリト雖、

$$\begin{aligned} (\sqrt{-b})^3 - \sqrt{b^3(-b)} &= b\sqrt{-b} \\ (\sqrt{-b})^5 - \sqrt{b^4(-b)} &= b^2\sqrt{-b} \end{aligned}$$

ヲ以テ此部各率ノ和ハ $N'\sqrt{-b}$ ノ一率ヲ以テ之ニ代

フルヲ得ヘシ、故ニ壹式ノ方根ヲ

$$a + \sqrt{-b}$$

レハ貳式變シテ左ノ如シ、

$$M' + N'\sqrt{-b} = 0 \dots (伍)$$

式
中 $M' = 0$
 $N' = 0$ ナラサル可カラス、(第二百七十

七章)

又貳式ノ各率及ヒ其解散諸率ノ下標ヲ用フル

時ハ、即チ壹式ノ方根ヲ $\sqrt{-b}$ トスルニ同シク、其約

a

式左ノ如クナル可シ、

$$M' - N'\sqrt{-b} = 0 \dots (陸)$$

伍陸兩式ノ $M'N'$ 互ニ相同シキハ、貳式ノ
解散ヲ以テ容易ニ之ヲ知ル可シ、

是ニ由テ之ヲ觀レハ、壹式ノ方根ニ $a + \sqrt{-b}$ アル時ハ、

亦必ス $a - \sqrt{-b}$ アル可キハ當然ナリ

デスカ
特ス加爾徳士規則

第四百四十六章

方程式

$X=0$

ハ、真數正數ノ方根

ハ、其數各率異標承繼ノ數、過ク可カラズ、而シ

テ、若シ此方程式 $X=0$ 完全ナル時ハ、真數負數ノ方

根、其數各率同標承繼ノ數ニ過ク可カラス、

原註ニ曰ク、凡ソ連續ノ數量ニ於テ、同標兩々

相續ノ者ヲ同標承繼ト謂ヒ、異標兩々相續ノ

者ヲ異標承繼ト謂フ、比如ハ上ノ連

續數ニ於テハ同標承繼、異標承繼、各

四對アリトス、

$$x^8 - 3x^7 - 4x^6 + 7x^5 + 3x^4 + 2x^3 - x^2 - x + 1$$

設如ハ左ノ方程式ノ方根ヲ a, b, c 等ト為ス、

此式ノ真數正數ノ方根ニ從ヒ、 $x-a, x-b, x-c$ 等

ノ諸因子ノ積ヲ以テ壹式ヲ除シ、所得ノ

方程式ヲ以テ左ノ如シト為ス可シ

此式ニ於テハ、絶テ真數正數ノ方根ナシ

トス、

$X_1=0 \dots$ (貳) $X=0 \dots$ (壹)

是ニ於テ真數正數ノ方根ニ從ヒ、一因子 $x-a$ ヲ以

テ貳式ニ乘スレハ、則チ其所得ノ式ニ於テハ、異

標承繼ノ數、必ス貳式ヨリモ一對ヲ増ハ可シ、今

ノ積ニ於テ異標承繼ノ數ハ貳式ヨリモ一對ヲ
増ス可ク、復々同法ヲ以テ、此所得ノ方程式ニ $x-b$
ヲ乘スレハ、則チ異標承繼ノ數又一對ヲ増ス可
シ、

是故ニ曰ク、方程式 $X=0$ ノ真數正數ノ方根ハ其數、
各率異標承繼ノ數ニ過ク可カラスト、

又本章冒頭ノ第二節ハ、則チ左ノ如ク之ヲ證ス
可シ、

比如ハ壹式ヲ完全式ト為シ、其隔率ノ標記ヲ變
更スレハ、則チ方根ノ標記ヲ變シ、(第四百四十四

章) 同標承繼ハ異標承繼ト為ル可ク、異標承繼ハ
同標承繼ト為ル可シ、然リ而シテ所得ノ方程式
ニ於テ真數正數ノ方根ハ其數各率異標承繼ノ
數ニ過ク可カラス、是故ニ本式ノ真數負數ノ方
根ハ其數各率同標承繼ノ數ニ過ク可カラスト
曰フ、

第四百四十七章 正數方根ヲ増ス時ハ、必ス異
標承繼ノ數ヲ増ス可シト雖、方程式諸率ノ異
標承繼ハ、必シモ真數正數ノ方根ヲ含有ス可シ
ト謂フニ非ス、故ニ左ノ方程式ニ於テ異標承繼

二對同標承継一對アリ、而シテ其方根中一モ正
數ニシテ真數ナル者ナシ、

$$x^3 - x^2 - 7x + 15 = 0$$

方根

$$2 + \sqrt{-1}$$

$$2 - \sqrt{-1}$$

$$-3$$

然リト雖凡諸方根皆真數ナル時ハ正數方根ハ
數ハ必ス異標承継ハ數ニ同シク負數方根ノ數
ハ必ス同標承継ハ數ニ同シ、

加爾煖三次方程式

第四百四十八章 凡ソ方程式ハ之ヲ變シテ其
第二率ヲ闕ク者ト為ス可キハ、既ニ上(第四百三
十七章)ニ之ヲ論シタリ、仍テ三次方程式ハ之ヲ
約シテ左ノ形狀ヲ為サシム可シ、

$$x^3 + 3px = 2q \dots (壹)$$

此式ヲ解カント欲セハ、固ヨリ常法ノ如
ク、立方根ヲ開カサル可カラス、而シテ茲
ニ x ノ倍數ヲ $3p$ ト為シ、自由率ヲ $2q$ ト為
ス者ハ、左ノ術中ニ於テ分數ヲ避クルカ
為ナリ、

比如ハ
 $x = v + y$
 トスレハ、壹式變シテ左ノ如シ、

$$(v+y)^3 + 3p(v+y) = 2q \dots (貳)$$

式約散解

$$v^3 + y^3 + 3(vy+p)(v+y) = 2q \dots (参)$$

モ次出固ト x
 取式ツヨ為ヲ
 テヲルリシ分
 妨設ヲ隨タルテ
 ナクル以意ハニ部
 シ、ルテニハ、

$$vy + p = 0 \dots (肆)$$

リ由ニ式参

$$v^3 + y^3 = 2q \dots (伍)$$

肆式ニ由リ y ノ數價ヲ得テ以テ伍式ニ代用シ、
 且ツ之ヲ約シテ次式ヲ得ヘシ、

$$v^6 - 2qv^3 = p^3 \dots (陸)$$

リ由ニ此

$$v^3 = q \pm \sqrt{q^2 + p^3} \dots (柒)$$

用ニ伍以價此 v^3
 ス、代式テ、ヲ數ノ

$$y^3 = q \mp \sqrt{q^2 + p^3} \dots (ハ)$$

ヲ取テ次式
 得ヘシ、
 立方根ノ和
 柒ハ兩式ノ
 ナルカ故ニ、
 定シタル者
 初ノ
 $x = v + y$
 ト假

$$x = (q + \sqrt{q^2 + p^3})^{\frac{1}{3}} + (q - \sqrt{q^2 + p^3})^{\frac{1}{3}} \dots (甲)$$

是ヲ三次方程式ノ加爾煖法式ト為ス、

第四百四十九章

上章加爾煖法式ノ p 若シ負

數ナル時ハ、其立方根ハ數ニ於テ q^2 ヨリモ大ニ

シテ $\sqrt[3]{q^2+p}$ ハ想像數トナル可シ、此例ヲ名ツケテ約

ス可カラサル者トス、然リ而シテ此例ニ於テモ

亦方程式ノ方根ハ必スシモ想像數ナリト決斷

ス可カラス、何トナレハ假令 $\sqrt[3]{q^2+p}$ ハ想像數ナル

氏 $a\sqrt{-1}$ ヲ以テ之ニ代フルヲ得ルカ故ニ、甲式 x

ノ數價ハ左式ノ如クナル可シ、

$$x = (q + a\sqrt{-1})^{\frac{1}{3}} + (q - a\sqrt{-1})^{\frac{1}{3}} \dots (壹)$$

又

$$x = q^{\frac{1}{3}}(1 + a\sqrt{-1})^{\frac{1}{3}} + q^{\frac{1}{3}}(1 - a\sqrt{-1})^{\frac{1}{3}} \dots (貳)$$

又

$$\frac{x}{q^{\frac{1}{3}}} = (1 + a\sqrt{-1})^{\frac{1}{3}} + (1 - a\sqrt{-1})^{\frac{1}{3}} \dots (參)$$

今參式後項ノ兩率ヲ開散
シテ、其所得ヲ加フレハ、 $\sqrt{-1}$
ヲ含有スル所ノ諸率ハ消
失シテ結局真數ト為ル可
シ、既ニ約ス可カラサルノ
例ニ於テハ方程式ノ方根
悉皆真數ト為ルカ故ニ、甲
法式ノ實用ニ適ス可キハ、
只其二方根想像數ナル時

一 限レリ、此時ニ方テ眞數方根ハ直ニ法式ニ由
 ラ之ヲ得ヘク、次ニ三次方程式ヲ除シテ二次方
 程式ト為シ、以テ想像數ノ二方根ヲ得ヘシ、

設問

第一

左ノ方程式アリ其諸方根ヲ求ム、

$$x^3 - 7x^2 + 14x - 20 = 0$$

第四百三十七章ニ從ヒ此式ヲ變シテ、其

第二率ヲ關ク者ト為

シ、 $x = y + \frac{7}{3}$ ト為マハ、則テ次

ノ變式ヲ得ヘシ、

$$y^3 - \frac{7}{3}y = \frac{344}{27}$$

此式ニ法式

ヲ適用シテ

左式ヲ得、

$$2q = \frac{344}{27} \quad 3p = -\frac{7}{3}$$

$$q = \frac{172}{27} \quad p = -\frac{7}{9}$$

$$\sqrt{q^2 + p^3} = \sqrt{\left(\frac{172}{27}\right)^2 - \left(-\frac{7}{9}\right)^3} = \pm \frac{171}{27}$$

$$y = \left(\frac{172}{27} \pm \frac{171}{27}\right)^{\frac{1}{3}} + \left(\frac{172}{27} \mp \frac{171}{27}\right)^{\frac{1}{3}} = \frac{7}{3} + \frac{1}{3} = \frac{8}{3}$$

$$x = \frac{8}{3} + \frac{7}{3} = 5 \text{ 眞方根}$$

ノ $x = 5$ ヲ以テ問題

約式ヲ得レ

左ノ如シ、

$$x^2 - 2x + 4 = 0$$

$$x = 1 \pm \sqrt{-3}$$

是ニ由テ

根左ノ如シ、

5

$$1 + \sqrt{-3}$$

$$1 - \sqrt{-3}$$

第二 方程式

法式ヲ適用センカ為ニ、先ツ左式ヲ作ル可シ、

$$2q = 88 \quad 3p = 6$$

$$q = 44 \quad p = 2$$

$$\sqrt{q^2 + p^3} = \sqrt{1936 + 8} = 44.090815 +$$

$$x = (44 + 44.090815)^{\frac{1}{3}} + (44 - 44.090815)^{\frac{1}{3}}$$

即チ

$$x = 4.4495 - .4495 = 4$$

ノ如シ、
4
-2+3√-3
-2-3√-3

$$x^2 - 4x - 23 = 0$$

$$x = -2 \pm 3\sqrt{-3}$$

ハノ仍
即チ三方根

式ヲ得ヘシ、
是ニ由テ左ノ約
真方根

第三

$$x^3 - 6x = 5.6$$

此例ハ即チ
約ス可カラ
サル者ナル
カ故ニ、級數
ヲ以テ之
ヲ解ク
ノ如シ、

$$q = 2.8 \quad p = -2$$

$$x = (2.8 + \sqrt{7.84 - 8})^{\frac{1}{3}} + (2.8 - \sqrt{7.84 - 8})^{\frac{1}{3}}$$

又

$$x = (2.8 + .4\sqrt{-1})^{\frac{1}{3}} + (2.8 - .4\sqrt{-1})^{\frac{1}{3}}$$

又

$$\frac{x}{\sqrt[3]{2.8}} = (1 + \frac{1}{7}\sqrt{-1})^{\frac{1}{3}} + (1 - \frac{1}{7}\sqrt{-1})^{\frac{1}{3}}$$

大分県立第一中学校

八〇

<p>第四</p> $x^3 - 6x - 6 = 0$	<p>左ノ諸式アリ、各其xノ數價ヲ求ム、</p>
<p>第五</p> $x^3 + 9x - 6 = 0$	
<p>第六</p> $x^3 + 6x^2 - 13x + 24 = 0$	

$$\left(1 + \frac{1}{7}\sqrt{-1}\right)^{\frac{1}{3}} = (1+b)^{\frac{1}{3}}$$

$$\left(1 - \frac{1}{7}\sqrt{-1}\right)^{\frac{1}{3}} = (1-b)^{\frac{1}{3}}$$

時

今

ハ

$b = \frac{1}{7}\sqrt{-1}$

$b^2 = -\frac{1}{49}$

ト

ス

ル

從式雙
ヒ、=率

$b^4 = -\frac{1}{49} \times -\frac{1}{49}$

$$(1+b)^{\frac{1}{3}} = 1 + \frac{1}{3}b - \frac{2}{3 \cdot 6}b^2 + \frac{2 \cdot 5}{3 \cdot 6 \cdot 9}b^3 - \frac{2 \cdot 5 \cdot 8}{3 \cdot 6 \cdot 9 \cdot 12}b^4 + \dots$$

$$(1-b)^{\frac{1}{3}} = 1 - \frac{1}{3}b - \frac{2}{3 \cdot 6}b^2 + \frac{2 \cdot 5}{3 \cdot 6 \cdot 9}b^3 - \frac{2 \cdot 5 \cdot 8}{3 \cdot 6 \cdot 9 \cdot 12}b^4 - \dots$$

和

$$= 2 - 2\left(\frac{2}{3 \cdot 6}b^2\right) - 2\left(\frac{2 \cdot 5 \cdot 8}{3 \cdot 6 \cdot 9 \cdot 12}b^4\right) - \dots$$

$$= 2 + .004535 - .000034 = 2.004569$$

$\frac{x}{\sqrt[3]{2 \cdot 8}} = 2.004569$

仍

テ

$$x = (2.004569)^{\frac{3}{2}} \sqrt{2 \cdot 8} = 2.84734$$

答

第十一編 多次方程式

真數方根際限

第四百五十章 凡ソ方程式ノ正數方根ハ0及
 $+\infty$ ノ間ニ限ラレ、負數方根ハ0及 $-\infty$ ノ間ニ
 止マル可シ、然リ而シテ多次方程式ノ數價ヲ解
 カント欲スル時ハ、愈、狹隘ナル際限ヲ為スヲ以
 テ須要ト為ス、今之ヲ論スルニ先テ、若シ未知數
 ニ代フルニ其諸方根ヨリヒ多少ノ差アル諸數
 及ヒ諸方根ヲ其中間ニ含ム所ノ諸數ヲ以テス
 ル時ハ、方程式ニ於テ生スル所ノ影響如何ヲ説

ク可シ、

第四百五十一章 方程式若シ普通ノ形ニシテ、

其成立ハ方根ノ標記ヲ反シテ x ニ附シタル、雙

率ヲ相乘スル所ノ積ナリトスル時ハ、其積ノ標

記ハ未タ嘗テ想像方根ノ影響スル所ニ非サル

ヲ知ル可シ、何トナレハ第四百四十五章ニ從ヘ

ハ、方程式ノ一方根 $a+\sqrt{-b}$ ノ形ヲ成ス時ハ、必ス又他

ニ $a-\sqrt{-b}$ ノ形ヲ成ス者アル可シ、然リ而シテ此兩方

根ヲ相乘スレハ則テ左式ノ如シ、

$$(x-a-\sqrt{-b})(x-a+\sqrt{-b}) \\ = (x-a)^2 + b$$

此式タルヤ必ス常ニ正數ナル者ナ
リ、

第四百五十二章 比如ハ a, b, c, d 等ヲ以テ方
程式ノ真方根ト為シ、代數價格ノ順序ニ從テ位
次ヲ立ツレハ、則チ左ノ如ク方程式ヲ記スル
ヲ得ヘシ、

式、第一 $(x-a)(x-b)(x-c)(x-d) \dots = 0$

中、一則
ノ、最、
 x 、小、
ニ、方、
代、根、
ヘ、ヨ、
而、リ、
シ、モ、
テ、小、
方、ナ、
程、ル、
式、數、
偶、ヲ、
數、以、
ナ、テ、
レ、方、
ハ、程、
則、
チ、

$$(h-a)(h-b)(h-c)(h-d) \dots$$

此若シ最小方根 a ヨリ
モ小ナレハ、則チ各因子負
數タル可ク、其積ハ則チ因
子ノ數ノ奇偶ニ由テ正數
或ハ負數タル可シ、然リ而
シテ因子ノ數ハ必ス方程
式ノ次數ニ同シ、(第四百二
十七章) 是ニ由テ左則ヲ得、
十、
七、
章、
是、
ニ、
由、
テ、
左、
則、
ヲ、
得、

其所得正數ナル可ク若シ奇數ナレハ則チ其所得負數ナル可シ

又ハ若シ最大方根ヨリモ大ナル時ハ各因子正數ナル可ク因テ其積モ亦正數ナル可シ是ニ由テ左則ヲ得

第二則 最大方根ヨリモ大ナル數ヲ以テ方程式中ノ x ニ代フレハ則チ其所得ハ毎ニ正數ナル可シ

又ハ α ヲ以テ前ニハ a ヨリモ小ト為シ後ニハ a ヨリモ大ニシテ b ヨリモ小ト為ス可シ前後ハ

ノ價格ノ變スレハ則チ因子 (h, a) ノ標記ノ變ス可

ク因テ亦其積ノ標記ヲ變ス可シ又次ニ h ヲ以テ b ヨリモ大ニシテ c ヨリモ小ト為ス時ハ同上ノ理ニ由テ積ノ標記ヲ變更ス可シ故ニ凡ソ

不定數 h ハ方程式真方根ノ數價ニ過クレハ輒チ必ス標記ヲ變ス可ク否ヲサレハ決シテ標記ヲ變スルヲナシトス是ニ由テ左則ヲ得

第三則 二數ヲ以テ順次ニ方程式中ノ x ニ代フレハ其所得ハ標記ヲ反對シ二數ノ間ニ少クモ必ス真數ノ一方根ヲ含有ス可シ

又若シ代用ノ間ニ、方根ノ數一三五等ノ奇數ヲ
含有スル時ハ、其所得ハ標記ノ變化ヲ致シ、可ク
方根ノ數偶數ナル時ハ、未タ嘗テ標記ヲ變更セ
ズ、

第一百四十三章 方程式中最大ナル負數倍數
ノ數價ヲ以テPト為シ、第一負數倍數ノ前ニ在
ル率數ヲルト為ス時ハ、 $\sqrt[n]{P} + 1$ ヲ以テ此方程式正數
方根ノ最上際限ト為ス可シ、
設如ハ左式ナリ、

$$x^m + Ax^{m-1} + Bx^{m-2} + Cx^{m-3} + \dots + Tx + U = 0 \quad (壹)$$

x^m ヨリ第一負數
倍數ニ至ルノ間
ニ正數率アラハ、
之ヲ脱却シ、 $-P$ ヲ
以テ x^m ノ後ヨリ
以下各率ノ倍數
ニ代フレハ、則チ
壹式ノ前項次ノ
如クナル可シ、

$$x^m - (Px^{m-n} + Px^{m-n-1} + \dots + Px + P) \dots \quad (貳)$$

x ニ代用ナル所
ノ數價ハ、其何タ
ルヲ論セス、貳式
ノ所得ヲ正數ト
為ス者ハ亦必ス
壹式ノ所得ノ正
數ト為ス可シ、何
トナレハ壹式ノ
諸負率ノ和ハ固
ヨリ貳式ノ負數

部ヨリ大ナルコ
能ハス、且ツ壹式
ニ於テ一二ノ正
數率アリ、貳式ニ
於テハ之ヲ脱却
シタルヲ以テナ
リ、
 x^m ヲ以テ貳式ノ
各率ヲ除シテ次
式ヲ得ヘン、

$$1 - \left(\frac{P}{x^n} + \frac{P}{x^{n+1}} + \frac{P}{x^{n+2}} + \dots + \frac{P}{x^{m-1}} + \frac{P}{x^m} \right) \dots (参)$$

今 $x = \sqrt[n]{P+1} = n+1$ トスレハ
 n ヲ以テ $\sqrt[n]{P} =$
代用シ以テ術
ヲ簡易ナラシ
ム可シ、而シテ
ハ、 $P = r^n$ ナルヲ知ラ
得ヘシ、則チ次式ヲ

$$1 - \left(\frac{r^n}{(r+1)^n} + \frac{r^n}{(r+1)^{n+1}} + \dots + \frac{r^n}{(r+1)^{m-1}} + \frac{r^n}{(r+1)^m} \right)$$

第三百六十章乙式ニ從ヒ括弧内ニ顯ハル、所
ノ幾何級數ヲ加フレハ、則チ次式ノ如クナル可
シ、

$$1 + \frac{r^{n-1}}{(r+1)^n} - \left(\frac{r}{r+1} \right)^{n-1} \dots (肆)$$

今 $\frac{r}{r+1}$ ハ真ノ分數ニシテ一箇ヨリモ
小ナルカ故ニ、肆式ノ數價ハ必ス正數
ナリ、又負率 $\left(\frac{r}{r+1} \right)^{n-1}$ ハ常ニ一箇ヨリモ小
ナルヲ以テ、 r ノ數價ハ何程大ナル氏、
肆式負數ト為ルヲ無シ、是ニ由テ之ヨ
觀レハ $\sqrt[n]{P+1}$ 若シクハ較大ナル他ノ數ヲ

以テ x ニ代用スレハ、其所得ハ既ニ参式ニ於テ
 正數ナルカ故ニ、貳式ニ於テモ正數ナリ、壹式モ
 亦正數ナラサルヲ得ス、仍テ第四百五十二章第
 二則ニ從ヒ $\sqrt[n]{p+1}$ ハ方程式正數方根ノ最上際限タ
 ルヲ證スルニ足ル可シ、
 上ニ説ク所ノ條理ヲ適用セント欲スル時ハ、自
 由率ヲ以テ x^0 ノ倍數ト為サ、ル可カラス、而シ
 テ若シ方程式未全ナル時ハ、闕率ヲ以テ n ノ數
 中ニ算入セサル可カラス、
 又方程式中一モ負數率ナキ者ハ、決シテ正數方

根ナシ、何トナレハ、正數ヲ以テ x ニ代フル時ハ、
 皆始率ヲ正數ト為ス可キヲ以テナリ、詳ニ之ヲ
 解スレハ、 x ノ正數ハ絶テ始率ヲ零ト為スヲ能
 ハサルカ故ナリ、

設問

第一ノ方程式ノ正數方根最上ノ際限ヲ問フ、

$$x^5 + 5x^4 + 2x^3 - 14x^2 - 26x + 10 = 0$$

此ニ於テ $n=3$
仍テ總數下ノ如シ $P=26$
ナリ

$$\sqrt[n]{P+1} = \sqrt[3]{26+1} = 4 \text{ 答}$$

左ノ諸方程式ノ正數方根最上際限ヲ求ム、

一 第

$$x^4 + 5x^3 - 25x^2 - 12x + 68 = 0$$

三 第

$$x^4 - 5x^2 - 9x + 12 = 0$$

四 第

$$x^3 + x^2 + 3x - 8 = 0$$

第四百五十四章 方程式負數方根最上ノ際限

數ヲ知ラント欲セハ、則チ左則ニ從フ可シ、

則 隔率ノ標記ヲ變更シ、若シ未全式ハ其關率

ヲ之ニ算入シ、而シテ後ニ上章ノ規則ヲ適用ス、

可シ、

蓋シ本則ハ第四百四十四章ニ從ヒ、新方程式ノ

正數方根ハ、舊本方程式ノ負數方根ト其數相同

シキニ由ルナリ、

設問

左ノ方程式ニ於テ負數方根ノ最上際限ヲ問フ、

一 第

$$x^3 - 3x^2 + 5x + 7 = 0$$

二 第

$$x^4 - 15x^2 - 10x + 24 = 0$$

三 第

$$x^6 - 3x^5 + 2x^4 + 27x^3 - 4x^2 - 1 = 0$$

方程式際限

第四百五十五章 爰ニ甲方程式アリ其諸方根ハ數價ノ順序ニ於テ直ニ他、乙方程式ノ諸方根ノ中間ニ在ル時ハ、甲ヲ名ツガテ乙ノ方程式

際限ト曰フ、

第四百五十六章 既ニ方程式ヲ知レハ、其第一假複率ヲ零ト為シ以テ其際限式ヲ作ルヲ得ヘシ、

比如ハ $X=0$ 式ノ諸方根ヲ a, b, c, \dots, k, l

ト為シ、其假複率 $X_1=0$ ノ諸方根ヲ $a', b', c', \dots, k', l'$

立テ、又兩式ノ諸方根ヲ合シテ數價ノ順序ニ從テ位次ヲ立ツレハ、則チ其諸方根下ノ如キヲ知ル可シ、

$$a, a', b, b', c, c', \dots, k, k', l, l'$$

兩式ニ於テ $x = x' + u$ ト為シ、

諸率ヲ開散シテ其所

得ニ於テ、 u ノ邊加自

乘標ニ從テ位次ヲ立

テ、而シテ X_2 ハ X_1 ノ第

一假複率タルヲ以テ、

此ニ注意シテ、第四百

三十六章ノ記號ヲ用

ヒテ次式ヲ得ヘシ、

$$X = X' + X_1 u + \frac{X_2'}{2} u^2 + \frac{X_3'}{2 \cdot 3} u^3 + \dots = 0 \dots (壹)$$

$$X_1 = X_1' + X_2' u + \frac{X_3'}{2} u^2 + \frac{X_4'}{2 \cdot 3} u^3 + \dots = 0 \dots (貳)$$

此ニ於テ X'

X_1' X_2' 等ハ X

X_1 X_2 等ニ代

フル者ニシ

テ、 x' ヲ以テ

x ニ代用ス

ル時ヲ示ス

者ナリ、

今 $x' = r$ 即チ $x = r + u$ トスル時ハ、 r ハ方程式ノ方根ナリ、

然リ而シテ $X = 0$ ニシテ X_1' X_2' X_3' ハ各一定ノ價格ヲ

得ルカ故ニ u ニ若干ノ

數價ヲ附シテ、 X 及ヒ X_1

ハ零ト為リ、或ハ零ト為

サル者アリ、 X' ヲ壹式ヨ

リ落シテ、其商ノ因子ヲ

分割スレハ、則チ次式ヲ

得ヘシ、

$$X = u \left(X_1' + \frac{X_2'}{2} u + \frac{X_3'}{2 \cdot 3} u^2 + \dots \right) \dots (叁)$$

$$X_1 = \left(X_1' + \frac{X_2'}{2} u + \frac{X_3'}{2 \cdot 3} u^2 + \dots \right) \dots (肆)$$

一定ノ價格ヲ

式中華 u ノ

數價ニ由リ

所屬ノ諸率

必ス正數ト

為ル者アリ

又負數ト為

ル者アリ、

是ニ於テ括弧内第二率以下、各率 α ノ價格ヲ減
スレハ、隨意ニ之ヲ縮小セシム可ク、 α 若シ十分
ニ小ナレハ則テ各括弧内 α ヲ含有スル所ノ諸
率ノ和ハ、第一率 X_1 ヨリモ小ニシテ兩括弧ノ數
量ハ、其標記必ス X_1 ノ標記ニ關セサルヲ得サル
ニ至ルハ固ヨリナリ、仍テ α 若シ最小無窮ニ至
レハ、 X 及ヒ X_1 ノ標記ハ各必ス (X_1) 及ヒ X_1 ニ關ス
可シ、是故ニ α 若シ負數ナレハ、則テ X X_1 ハ其標
記相同シカル可シ、

第四百五十七章 上章說ク所ニ由テ之ヲ觀レ

ハ方程式 $X=0$ 及ヒ其第一假複率 $X_1=0$ ニ於テ、 α 代
用スレハ、 α 方根 α ハ α リモ小ナルヲ以テ其所得ハ
標記ヲ反ス可ク、若シ α ヲ代用スレハ、 α 方根 α ヨ
リモ大ナルヲ以テ其所得ハ相同シカル可シ、
第四百五十八章 今 X X_1 ノ記號ニ代用スル所
ノ數ヲ以テ $X=0$ ノ最小方根 α ヨリモ稍小ナル者
ト思ヒ、而シテ後ニ又 α ヨリモ稍大ナル者ト想
フ可シ、若シ方根 α ノ α ヲ過クルニ至レハ、則テ
 X ハ其標記ヲ反ス可シ、(第四百五十二章第三則)
是ニ由テ記號ノ標記左ノ如シ、

$x = a - u$
 $x = a$
 $x = a + u$

x	x_1
+	-
0	-
-	-

否ラサル時ハ

x	x_1
-	+
0	+
+	+

又代用ノ數量 $x = a + u$ ヨリ増加シテ $x = b - u$ 至リ $x = 0$ 第

二方根 b ト幾ト相近カラシム可シ、然レハ則チ
 上章ニ説ク所ノ理ニ從ヒ x 及ヒ x_1 ハ其標記相
 反ス可ク、又 x ハ x ノ數價 a 至ルノ間

二於テ其標記ヲ變スルヲ能ハサルヲ以テ標記
 ノ變化ハ必ス $x_1 = 0$ 在ラサル可カラス、第四百五
 十二章第三則ニ由レハ、 $x_1 = 0$ ノ一方根ハ $a + u$ 及ヒ $b - u$
 ノ中間即チ a 及ヒ b ノ中間ニ在リトス、又同法
 ニ由テ $x_1 = 0$ ノ一方根ハ b 及ヒ c ノ中間ニ在リ、又
 一方根ハ c 及ヒ d ノ中間ニ在リ、餘皆之ニ準ス、
 是ニ由テ本章冒頭ノ思想ノ真ナルヲ證ス可シ、

西德爾摩法則

第四百五十九章 西德爾摩法則ノ主義タルヤ、

方程式真數方根ノ數ヲ定メ且ツ適合數ニ於テハ其位數ヲ定メ不開數ニ於テハ其首字ヲ定ムルニ在リ、

原註ニ曰ク此問題ノ困難ナル既ニ久シク數理學士ノ心勞ヲ費シテ後ニ西德爾摩氏創メテ術ヲ得テ之ヲ解キ西曆一千八百二十九年

佛國大學校ノ嘉納スル所ト為レリ、

第四百六十章 方程式ノ同方根ヲ求メテ之ヲ省約ス可キハ既ニ上(第四百三十五章)ニ之ヲ説ケリ、切テ今左式ヲ設ク、

$$X = x^m + Ax^{m-1} + Bx^{m-2} + \dots + Tx + U = 0$$

此式ヲ以テ同方根ナキ者ト為シ、 X_1 ノ以テ其第一假複率、或ハ際限式ト為ス可シ、今此 X, X_1 ノ記號ニ最大公倍數ヲ求ムルノ法(第一百〇五章)ニ類スル者ニシテ、聊左ノ改正ヲ加ヘタル者ヲ適用ス可シ、改正 毎、次、殘、數、ノ、標、記、ヲ、變、更、シ、除、術、ノ、用、意、ニ、於、テ、負、數、因、子、ヲ、取、捨、セ、ス、

毎、次、ノ、殘、數、ハ、其、標、記、ヲ、變、更、シ、 $R, R_1, R_2, \dots, R_{n-1}, R_n$ ヲ以テ之ニ代フレハ上ノ方程式ハ一モ同方根ナキ者ナルカ故ニ X, X_1 ノ間ニ公倍數ナシ、(第四

百三十五章、仍テ除術ヲ反復シテ終ニ殘數 R_n ヲ得ルニ至レハ、則チ其數ハ零ニ非スシテ、又 x ニ關セサル者ト為ル可シ、

是ニ於テ X, X_1 及ヒ R, R_1, \dots, R_{n-1} ノ各記號ノ x ニ代ノルニ別數ヲ以テシ、假ニ之ヲ α ト為シ、所得ノ標記ヲ一列ト為シ、異標承繼ノ數ヲ記ス可シ、次ニ $x = \alpha$ ニ代ノルニ α ヨリモ較大ナル數 α' ヲ以テシ、再ヒ異標承繼ノ數ヲ記ス可シ、此ニ四ハ、代用ニ於テ、異標承繼數ハ差ハ $\alpha - \alpha'$ ハ中間ニ在ル所ノ眞方根ノ數ニ同シ、カル可シ、是ヲ西德爾

摩ノ法則ト為ス、尚左ニ之ヲ説明ス可シ、

設如ハ $Q, Q_1, Q_2, \dots, Q_{n-1}, Q_n$

ヲ以テ每次除術ノ商ト為ス時ハ實ハ常ニ法ト商トノ積ニ眞ノ殘數ヲ加フル者ニ同シク、若シ殘數ノ標記ヲ變更スレハ之ヲ減スル者ニ同シ、

是ニ由テ下式ヲ得、

右甲式ニ由テ左ノ三條ヲ得

(一) $X = X_1 Q - R$

(二) $X_1 = R Q_1 - R_1$

(三) $R = R_1 Q_2 - R_2$

(四) $R_1 = R_2 Q_3 - R_3$

.....

(n) $R_{n-2} = R_{n-1} Q_n - R_n$

}

..... (甲)

第一條 $X, X_1, R_1, R_2, \dots, R_n$ は、 R_n 於て x に代フル、
別數ヲ以テスレハ諸記號一時ニ零ト為ル者ハ
必スニナラス、

若シニアリトセハ x = 代フル所ノ x ヲ以テ一
時ニ X_1 及ヒ R ヲ零ト為ス所ノ數ト為ス可シ、然
レハ則チ甲ノ第一式ハ $R_1 = 0$ ト為リ可ク、第三式ハ
 $R_2 = 0$ ト為リ可ク、次ヲ逐テ其終ニ至レハ $R_n = 0$ ト為ル
可シ、是レ固ヨリ成ル可カラサル者ナリ、
第二條 x = 某數價ヲ代用シテ一記號零ト為
ル時ハ他ハ兩記號ハ其標記相反ス可シ、

比如ハ第三式ニ於テ R_1 若シ零トナラハ、則チ此
式變シテ $R = -R_2$ ト為ル可シ、即チ R, R_2 ノ標記相反ス
ルナリ、

右兩條ノ理ヲ確定シテ後ニ、一時ニ諸記號ニ代
用ス可キ數量 n ヲ以テ不定數ト為シ、漸々小ヨ
リ大ニ至ル者ト為ス時ハ、其方根ヲ過クルニ際
シテ所屬ノ記號零ト為リ、以テ標記ヲ變更ス可
シ、(第四百五十二章第三則)
比如ハ $R_2 = 0$ ノ一方根ヨリモ稍小ト為シ、

q ヲ以テ稍大ト為シ、兩數ノ中間ニハ $R_1=0$ 及ヒ $R_2=0$
 ノ方根ヲ含有セサル者ト為ス時ハ、 h 變シテ p
 コリ q ニ至ルノ際ニ於テ、 R_1 ハ零ト為リ其標記
 ヲ變更ス可シ、然リ而シテ R_1 及ヒ R_2 ハ其標記ヲ
 變更スルヲ無シト雖、若シ $R_2=0$ タル時ハ兩記號
 、第二條ニ從テ相及ス可キ故ニ、 $h=p$ 或ハ q
 ル時モ亦其標記相及ス可シ、今 $h=p$ トスル時ハ各
 自ノ標記左ノ如シ、

R_2	R_3	R_1	R_2	R_3	R_1
±	—	+	±	+	—
或ハ			異標同標ノ承繼各一對	此複標ハ何レヲ取ル氏、	

若シ $h=q$ タル時ハ標記左ノ如シ、

R_2	R_3	R_1	R_2	R_3	R_1
±	—	+	±	+	—
或ハ			異標同標ノ承繼共ニ前	同シク異標承繼ニ於	

凡ソ中間ノ記號ニハ悉ク此理ノ適當スルハ、固
 ヲリナルカ故ニ又次ノ條ヲ得、
 第三條 若シ X 及ヒ R_n ハ中間ニ在ル所ハ記
 號ハ一方根ニ過クル時ハ異標承繼ノ數ニ於テ、
 變易ナカル可シ、

比如ハ a, b, c, d, \dots, l ヲ以テ X ノ諸方根ト為
 シ、其數價ニ從テ位次ヲ立ツル者トス、而シテ X_1
 ノ方根ハ先ツ a, b ノ間ニ出テ、次ニ b, c ノ間ニ
 顯ハル、逐次皆斯ノ如シ、(第四百五十八章)是ニ於
 テ X_1 ノ次數ハ X ヨリモ少キ一箇ナルカ故ニ、
 若シ X ノ次數奇數ナレハ、 X_1 ノ次數ハ偶數ナル
 可ク、若シ X ノ次數偶數ナレハ X_1 ノ次數ハ奇ナル
 可シ、今 h ヲ以テ a ヨリモ小ナリト為セハ、第四
 百五十二章第一則ニ從テ、 X, X_1 ノ標記相同シカ
 ラスシテ異標承繼ヲ成ス可シ、 h 若シ徐ニ増シ

テ a ヨリモ稍大ナルニ至レハ、 X ハ標記ヲ變シ
 テ X, X_1 ノ間ニ在ル一對ノ異標承繼ヲ失フ可シ、
 h 若シ尚ホ増シテ b ヨリモ稍小ナルニ至レハ、
 X_1 ノ第一方根ヲ過キテ X, X_1 ノ標記再ヒ不同ト
 為ル可シ、然リト雖、第三條ニ由テ、 X_1 ノ標記ニ
 於テ此變化ヲ生シタルカ為ニ、諸記號ノ標記ニ
 於テハ、異標承繼ノ數ヲ變スルヲ無カル可シ、又
 h 愈増シテ b ヨリモ稍大ナルニ至レハ、 X ハ復
 タ標記ヲ變シテ再ヒ異標承繼一對ヲ失フ可シ、
 斯ノ如ク異標承繼ハ數ハ h, X ハ一方根ヲ過ク

ハ毎ニ必ス一對ヲ減シテ法則ハ倍憑ス可キハ
推シテ知ル可シ

第四百六十一章 各種記號ニ於テ x ニ代用ス

ルニ、毎次 $h = -\infty$ 及 $h = +\infty$ ヲ以テスレハ、便テ方程式中

真數方根ノ數ヲ知ル可シ、此代用ニ於テ記號ノ

標記ヲ知ラント欲セハ、則チヲ記左則憶ス可シ、

則 x ハ遞減乗方ナル複率ニ於テ無窮數ヲ以

テ x ニ代用スレハ、總數ノ標記ハ第一率ノ標記

ニ關ス可シ

比
如ハ次ノ複率アリ、

$$Ax^m + Bx^{m-1} + Cx^{m-2} + Dx^{m-3} + Ex^{m-4} + \dots$$

$$A > \frac{B}{x} + \frac{C}{x^2} + \frac{D}{x^3} + \frac{E}{x^4} + \dots \quad (壹)$$

蓋シ此後項ハ至微實數、
或ハ零ヨリモ小ナルカ
故ナリ、又此兩項ニ x^m ヲ
乘スレハ則チ次ノ如シ、

$$Ax^m > Bx^{m-1} + Cx^{m-2} + Dx^{m-3} + Ex^{m-4} + \dots \quad (貳)$$

是故ニ
率ノ和ヨリモ大ナリ、仍テ總數ノ標記ハ始率ノ

標記ニ同シキナリ、

第四百六十二章 而德爾摩法則ノ實用スルニ
方テハ、常ニ X, R, R_1 等ノ諸跡ニ於テ數因ノ發棄
スルヲ得ヘシ、是レ蓋シ數因ハ所得ノ標記ニ
關スルヲ無キヲ以テナリ、其例左ノ如シ、

第一 方程式
アリ、其真方根ノ數及ヒ位置ヲ

$$x^3 + 3x^2 - 12x + 24 = 0$$

問フ、

單因子ヲ省約シテ各異ノ記號左ノ如シ、

$$X = x^3 - 3x^2 - 12x + 24$$
$$X_1 = x^2 - 2x$$
$$R = x - 2$$
$$R_1 = 4$$

此諸跡ニ於テ	$x = -\infty$	及ヒ	$x = +\infty$	ヲ代	
用シテ、毎	次ノ				
標記ヲ得ル	1				
下ノ如シ、					
	X	X_1	R	R_1	
	$x = -$	$+$	$-$	$+$	3
	$x = +\infty, +$	$+$	$+$	$+$	0
	三	根	方	真	3 答

問題ノ方程式ニ於テハ、異標承繼ニ對同標承繼
一對ナルカ故ニ、其二方根ハ正數ニシテ一方根

ハ負數ナル可シ、(第四百四十六章)又正數方根ノ位置ヲ知ラント欲セハ、則チ逐次ニ $x=0$ $x=1$ $x=2$ 等ヲ代用シ各次所得ノ異標承繼ヲ記スレハ則チ左ノ如シ、

異標承繼	標記
$x=0,$	+
$x=1,$	+
$x=2,$	-
$x=3,$	-
$x=4,$	+
$x=5,$	+

$x=1$ ヨリ $x=2$ ニ至ルノ間ニ於テ異標承繼一對ヲ失ヒ、又 $x=4$ ヨリ $x=5$ ニ至ルノ間ニ於テ復タ一對ヲ失フカ

故ニ正數ノ一方根ハ一二ノ間ニ在ル可ク、又一方根ハ四五ノ間ニ在ル可シ、

又負數方根ノ位置ヲ知ラント欲セハ、則チ $x=0$ $x=1$ 等ヲ代用シテ其標記ヲ得ルヲ左ノ如シ、

異標承繼	標記
$x=0,$	+
$x=-1,$	+
$x=-2,$	+
$x=-3,$	+
$x=-4,$	-

是ニ由テ負數方根ハ -3 -4 ノ間ニ在ル可ク、又三方根ノ首字ハ 1 4 及ヒ -3 ナルヲ知ル可シ、

第二 方程式ノ眞方根及ヒ其位置ヲ問フ

此問題ノ記號及ヒ記次ノ如ク

$$X = x^4 - 3x^3 - 7x^2 + 10x + 10$$

$$X = 2x^3 - 3x^2 - 7x + 5$$

$$x^4 - 2x^3 - 7x^2 + 10x + 10 = 0$$

$$R = 17x^2 - 23x - 45$$

$$R_1 = 152x - 305$$

$$R_2 = 52x - 785$$

異標承繼

$$x = -\infty, \quad + \quad - \quad + \quad - \quad +, \quad 4$$

$$x = +\infty, \quad + \quad + \quad + \quad + \quad +, \quad 0$$

是ニ由テ諸方根皆眞數ナリ

問送方程式ノ標記ハ異標承繼ニ對ナルカ故ニ其ニ方根ハ正數ニシテ二方根ハ對ナルカ故ニ其ニ方根ハ正數ニシテ二方根ハ

異標承繼

標記

$x = 0,$	+	+	-	-	+	2
$x = 1,$	+	-	-	-	+	2
$x = 2,$	+	-	-	-	+	2
$x = 3,$	+	+	+	+	+	0
$x = -1,$	-	+	+	-	+	3
$x = -2,$	-	-	+	-	+	3
$x = -3,$	+	-	+	-	+	4

是ニ由テ二方根ハ二三ノ間ニ在リ、一方根ハ零及ヒ-1ノ間ニ在リ又一

問ニ在リトス

二三箇ノ中間ニ在ル所ノ兩方根ヲ含メス可キ
 際根ヲ知ラント欲スハ問題ノ方程式ヲ變シテ
 其方根二箇ヲ減スル者ト爲シ第四百四十三章
 由テ術ノ施ムル左ノ如シ、

$$\begin{array}{r}
 -2-7+10-10 \quad | \quad 2 \\
 1 \quad 2 \quad 0-14-8 \\
 \hline
 0-7-4, +2-X \\
 2+4-6 \\
 \hline
 2-3, -10=X_1 \\
 2+8 \quad \quad \quad \frac{X_2}{2} \\
 4, 15 \\
 \frac{2}{6} \quad \quad \quad \frac{X_3}{2 \cdot 3}
 \end{array}$$

是ニ由テ
 變式下ノ
 如シ、

$$V = y^4 + 6y^3 + 5y^2 + 10y + 2 = 0$$

本式ノ兩方根ハ二三ノ間ニ在ルヲ以テ變
 式ニ於テハ零一ノ間ニ在ラザル可カラス、此兩
 方根ノ位置ハ只Vニ由リ左ノ如ク試驗シテ以
 テ之ヲ求メ得ヘシ、

代 用	記 標	V
y = 0, .1, .2, .3, .4, .5, .6, .7, .8	++++- - - - +	是ニ由テVノ一方根ハ.2 .3ノ間
		ニ在ル可ク、又一方根ハ.7 .8ノ間
		ニ在ル可シ、仍テ本式ノ方根首字
		ハ.2.2 及ヒ.2.7ナルヲ知ル可シ、

原註ニ曰ク、Vノ兩正數方根若シ相同シ、時
ハ復、Vヲ變シテ以テ同上ノ試驗ヲ為シ、可シ、
若シ精密ニ方程式ノ方根ヲ求メシト欲セハ、則
チ次ノ波爾納爾接近法ニ由ル可シ、

波爾納爾接近法

第四百六十三章 西曆一千八百十九年英國數
理博士波爾納爾君、各次方程式ノ方根數接近ノ
妙法ヲ發行ス、其術タルヤ、數回ノ變式ニシテ、每
四方根ノ一ニヨリ、前四ノ方根首字ヲ減シテ、

以テ之ニ得ル者ト雖、凡、前章ノ如ク代用ヲ為ス
ニ非ス、二乘三乘ノ方根ノ如ク試驗除法ヲ以テ
首字ヲ得ル者ナリ、

第四百六十四章 設如ハ左ノ普通式アリ、

$$X = x^m + Ax^{m-1} + Bx^{m-2} + \dots + Tx + U = 0 \quad \text{---(壹)}$$

西德爾摩法則或ハ其他ノ法方ニ由テ、
得ル所ノ方程式ノ一真方根ノ一二首
字ヲ以テ、 r ト為シ、次ニ其式ヲ變シテ
方根 r ヲ減スル者ト為シ、
 $x = r + y$ ト為シテ
次式ヲ得ヘン、

$$T = y^m + A'y^{m-1} + B'y^{m-2} + \dots + Ty + U = 0 \dots (貳)$$

此式ニ於テ y ハ方根ノ小數部ト為スコ
シ、何トナレハ r ハ既ニ其整數部ノ含有
スルハ必然ナレハナリ且ツ y ノ高次方
ナル諸率ハ較小ナルヲ以テ之ヲ脱却ス
レハ便チ次式ヲ得ヘシ、

$$Ty + U = 0$$

即チ

$$y = -\frac{U}{T}$$

此商ヲ以テ ρ ト為シ、

$$y = \rho + z$$

為シ、貳式ヲ變シテ方根 ρ ヲ減スル者ト
シ、次式ノ如シ、

然ルニ

是ニ由テ前ノ如ク次式ヲ得、

$$V' = z^m + Az^{m-1} + Bz^{m-2} + \dots + Tz + U = 0$$

$$z = \frac{U'}{T'} = \rho + z'$$

是ニ於テ ρ ハ求
ムル所ノ方根中
ノ別字ナリ、數回
此術ヲ反復スレ
ハ則チ終ニ下式
ヲ得ヘシ、

$$z = \rho + \rho' + \rho'' + \dots$$

是故ニ某次方程式ヲ解カント欲セハ、先ツ西德
爾摩法則等ヲ用ヒテ真方根ノ數及ヒ各方根ハ

一、二、首字ヲ求メ、次ニ方根ノ真數價ニ接近スル
ノ法則左ノ如シ、

第一則 問題ノ式ヲ變シテ求ムル所ハ方根ヨ
リ一、二、首字ヲ減スル者ヲ以テ方根ト為ス者ト
為ス可シ、

第二則 變式ノ自由率ヲ除スルニ其前率ハ倍
數ヲ以テ目的ト為シ其商ハ初位ヲ以テ求ムル
所ハ方根ノ次位ト為ス可シ、

第三則 上則ニ由テ得ル所ハ方程式ヲ再タヒ
變シテ其方根又上則所得ハ一位ヲ減スル者ト

為ス可シ斯ノ如ク術ヲ反復シテ遂ニ精密ノ方
根數ヲ得ルニ至ル可シ、

原註ニ曰ク、方根ヲ得ルカ為ニ要用トスル所
ノ變式ハ單ニ一術ニシテ悉ク之ヲ作ル可ク、
毎次ノ變式ニ由テ得ル所ノ倍數ハ各目標或
ハ號數ヲ附シテ以テ一目瞭然タラシム可シ、
毎回ノ除術ニ由テ得ル所ノ目的若シXノ自
由率及ヒXノ終ヨリ第二率ノ倍數ヲ以テ同
標ト為スヲアラハ此目的ハ真ニ非サルヲ以
テ其標記ヲ變ス可シ、

負數方根ヲ得ント欲スル時ハ、本式隔率ノ標記ヲ變シ、其所得ノ正數方根ヲ見ルヲ以テ最モ便ト為ス、而シテ其標記ヲ變スレハ即チ求ムル所ノ負數方根ナリ、

終リヨリ第二率ノ倍數 T' 、若シ術中ニ於テ零ト為ル時ハ、方根ノ次位ヲ求ムルニハ、 T' ノ前率ノ倍數ヲ以テ自由率 U' ヲ除シ、其商ノ平方根ヲ開テ以テ之ヲ得ヘシ、
 T' 若シ消失スレハ、則チ變式下ノ如シ、
 $S'y^2 + U' = 0$
 即チ
 $y = \sqrt{-\frac{U'}{S'}}$

設問

$$x^3 - 2x^2 - 20x - 40 = 0$$

第一 式アリ x ノ接近數價ヲ問フ

西德爾摩法則ニ由テ、此式ノ真方根ハ單一ニシテ首字六ナルヲ知り、次ニ小數二位ヲ得ルノ術左ノ如シ、

成除法ヲ用ヒ、本式ノ變シテ其方根六箇ヲ減

$$\begin{array}{r}
 -2 \\
 6 \\
 +4 \\
 6 \\
 10 \\
 6 \\
 (1) 16 \\
 0.2 \\
 16.2 \\
 .2 \\
 16.4 \\
 .2 \\
 (2) 16.6
 \end{array}$$

術

$$\begin{array}{r}
 -20 \\
 24 \\
 +4 \\
 60 \\
 (1) 64 \\
 3.24 \\
 67.24 \\
 3.28 \\
 (2) 70.52
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{r}
 -40 \mid 6.23 \\
 24 \\
 (1) -16 \\
 13.448 \\
 (2) -2.552
 \end{array}$$

答
6.23

スル者ト為シ、變式ノ倍數 16 64 -16 ヲ得テ術中
ニ (1) ト記シ、自由率 -16 ノ標記ヲ反シ、前率ノ倍
數 64 ヲ以テ之ヲ除シテ、.2 ヲ得テ以テ方根ノ
次位ト為ス、
次ニ (1) ト記シタル方程式ヲ復タ變シテ、其方
根 .2 ヲ減スル者ト為シ、所得ノ倍數ニ (2) ト記
シ、70.52 ヲ以テ 2.552 ヲ除シテ .03 ヲ得テ以テ方根ノ
第三位ト為ス、斯ノ如ク術ヲ反復スレハ、漸次
精密ニシテ遂ニ要用ナル接近數ヲ得ルニ至
ル可シ、

第二

$$x^4 + x^3 - 30x^2 - 20x - 20 = 0$$

式アリ x ノ一數價ヲ問フ、

西德爾摩法則ニ從ヒ、真數ニ方根ノ首字ハ5
及ヒ-5ナルヲ知リ、本式隔率ノ標記ヲ變シテ、
負數方根ノ小數ヲ得ルヲ左ノ如シ、
術

答
5.731574

四	三	一	一
1-1	-30	+20	-20.5731574
5	20	-50	-150
+4	-10	-30	(1) -170.0000
5	45	175	159.7071
9	+35	(1) +145.0000	(2) -10.2929
5	70	83.153	9.7729
14	(1) 105.00	228.153	(3) - .5202
5	13.79	93.149	.3304
(1) 19.0	118.79	(2) 321.302	(4) - .1898
0.7	14.28	4.455	.1653
19.7	133.07	325.757	(5) - .245
.7	14.77	4.474	.232
20.4	(2) 147.84	(3) 330.23	(6) - .13
.7	.65	.15	.13
21.1	148.49	330.38	0
.7	.65	15	
(2) 21.8	149.14	(4) 330.5	
	.65	1	
(2) 150		330.6	
		1	
(4) 2	(5) 331		
	(6) 33		

解ニ付ク術中ニ(2)ト記シタル諸率ヲ得ルニ

至ルマテハ恰モ前例ノ如ク、
 321.362
ヲ以テ
 10.9929
ヲ除

シテ次ノ方根.03ヲ得ヘシ、

是ニ至テ始テ立方根約法(第二百四十三章)

從ヒ小數ノ末位ヲ約ス、此術中ニ於テハ各約

率ノ右位ニ豫備小數一位ヲ設ケルト知ル可

シ、

先ツ第四行ニ於テ
 $21.8 \times .03$
即チ.65ヲ得テ之ヲ第三

行ニ加ヘテ
 148.49
ト為リ次ニ
 $148.49 \times .03$
即チ4.455ヲ得テ之

ヲ第二行ニ加ヘテ
 325.757
ト為リ、次ニ又
 $325.757 \times .03$
即チ9.7727

ヲ得テ之ヲ第一行ニ加ヘテ
 -5.202
ト為ル、

又.65ヲ第三行ニ加ヘテ
 149.14
ト為リ、次ニ
 $149.14 \times .03$
即チ

4.474
ヲ得テ第二行ニ加ヘ一位ヲ脱シテ
 330.23
ト為

ル、又 .65ヲ第三行ニ加へ、二位ヲ脱シテ 150ト爲ル
 斯ノ如クスル者數四ニシテ術ヲ終ルニ至ル
 可シ、

原註ニ曰ク、各行ノ方根ヲ約スルノ總則左
 ノ如シ、

曰ク第一行ハ零位、第二行ハ一位、第三行ハ
 二位、第四行ハ三位ヲ約ス可シ、以下皆之ニ
 準ス、

左ノ各方程式ノ真方根ヲ求ム

八 第	二 第
$x^4 + x^3 + x^2 - x - 500 = 0$	$x^3 + 2x^2 - 23x - 70 = 0$
九 第	四 第
$x^4 - 9x^3 - 11x^2 - 20x + 4 = 0$	$x^3 - x^2 + 70x - 300 = 0$
十 第	五 第
$x^4 - 12x^3 + 12x - 3 = 0$	$x^3 + x^2 - 500 = 0$
一十 第	六 第
$x^5 - 10x^3 + 6x + 1 = 0$	$x^3 - x^2 - 40x + 108 = 0$
	七 第
	$x^3 - 4x^2 - 24x + 48 = 0$

代數學卷之六 大尾

代數學卷之六 答式

東京

石川

彞

譯

方程式性質之部

一 第

$$x^2 + x - 6 = 0$$

二 第

$$x^3 + 5x^2 + 2x - 8 = 0$$

三 第

$$x^4 - 5x^3 - 7x^2 + 29x + 30 = 0$$

四 第

$$x^4 - 2x^3 + x^2 + 10x - 30 = 0$$

五 第

$$x^5 - 4x^4 + 22x^2 - 25x - 42 = 0$$

分裂乘法之部

第六	變式之部	第二
$y^4 + 7y^3 + 9y^2 - 42y = 0$		2, 2, -1, -1
第七		第三
$y^4 - 23y^2 + 22y + 60 = 0$		1, 1, 1, 1, 1, 1, 3, 3, -2, 2,
		第四
		3, 3, -2, 2,
		第五
		-1, +5, 1 + $\sqrt{-1}$, 1 - $\sqrt{-1}$.

同方根之部	第二	第六
	1, 2, 3.	$x^2 - 2x + 7 = 0$
	第三	第七
	2, -1, -2, -3.	$x^3 - 5x^2 + x + 5 = 0$
	第四	第八
	3, 1.	$x^2 - 4x + 6 = 0$
	第五	根
	-1, +5, 1 + $\sqrt{-1}$, 1 - $\sqrt{-1}$.	$2 + \sqrt{-2}$ $2 - \sqrt{-2}$

四 第	加爾煖三次方程式之部	第一	方根標記變更之部
$x = \sqrt[3]{2} + \sqrt[3]{4}$ $= 2.8473 +$		-3 $-2 - \sqrt{3}$ $-2 + \sqrt{3}$	
五 第		第二	
$x = \sqrt[3]{9} + \sqrt[3]{-3}$ $= .63783 +$		-1 $+2$ $-2 - \sqrt{-5}$ $-2 + \sqrt{-5}$	
六 第			
$x = -8$ $= 1 + \sqrt{-2}$ $= 1 - \sqrt{-2}$			

一 第	合成除法之部	四 第	作妻田美三
$1 + 2x + 2x^2 - 2x^3 + \dots$		$12x^3 - 2x^2 - 8x - 2$	
二 第		五 第	
$1 - x + x^2 - x^3 + x^4 - \dots$		$6x^3 - 22x^2 + 40$	
三 第		六 第	
$a^3 - 3a^2x + 3ax^2 - x^3$		$x^4 + x^2y^2 + y^4$	
四 第		七 第	
$x^2 - 3x + 5$		$x^5 - 14x^3 + 30x^2 - 23x + 6$	
五 第			
$x^6 + x^5y + x^4y^2 + x^3y^3 +$ $x^2y^4 + xy^5 + x^6$			

正數方根際限之部

第二、第三、第四、三、

負數方根際限之部

第一、總數、第二、第五、第三、四

波爾納爾接近法之部

三第	5.1345787253
四第	3.7387936782
五第	7.6172797559
六第	3.3792053825
	4.5875359541
	6.9667413367

第十第	2.8580833082	七第	1.7191292611
	.6060183069		6.5461457261
	4432769396		- 4.2652749871
	- 3.9073785547		
一十第		八第	4.4604108201
	- 3.0653157913		- 4.9296646474
	- .6915762805		
	- .1756747993	九第	.1796840250
	.8795087084		10.2586086356
	3.0530581627		

代數學卷之六

原註ニ曰ク凡ソ本書中諸問題ハ詳ニ載セテ
代數解式ニ在リ

代數學卷之六 終

明治十年三月九日版權免許
同 十年十月廿日出版

東京第二區十二小區

麻布烏居坂町一番地

譯者 石川 彝

同 第一區六小區

通二町目十二番地

出版人 小林新兵衛

同 第一區十二小區

紺屋町三十七番地

同 小林新造

大阪心齋橋通北久太郎町

全 唐物町四丁目

全 南一町目

全 備後町四丁目

全 備後町四丁目

尾張名護屋本町八丁目

東京日本橋通一丁目

全 通二町目

全 通三町目

全 淺草茅町二丁目

全 芝太神宮前

全 芝三島町

全 日本橋通二町目

柳原喜兵衛

森本太助

松村九兵衛

梅原龜七

吉岡平助

片岡東四郎

北島茂兵衛

稻田佐兵衛

丸屋善七

北澤伊八

牧野吉兵衛

山中兵衛

小林新兵衛